

●登場人物

本田宗 (元口小生湖(もとぐちこもこ)ランの相方。美人。 鈴木ラン(すずきらん)漫研のエース。うるさい。 (ほんだつかさ) 美術部の残念貴公子。

山葉春 川崎善二郎(かわさきぜんじろう)アマガエル色の (やまははる) クールビューティ優等生。

脳筋。

『禁書

いんだ」 「ちょっ、ちょっと待てなんでカギーつしか持ってな 「・・・・・ささ参ろう」

「だって一部屋・・・・・あ」

「『あ』じゃねえ。一部屋て何だ一部屋て、ちょ」 「あー……ポンちゃんだね。もっちゃんじゃないんだ

よね。忘れてたわ・・・・・」

ファで眠れたりするかもしれないし」 フロントにたむろうオタク共を」 「いや。たぶん無理。今日パンパン。見たでしょあの 「まま、ちょっと部屋見てみようよひょっとするとソ 「お前もだろ。えーっ、ちょっ」 「部屋一個ってのが問題なんだよ!」 「あたしゃ構わないぜ、どーせ起きてるし」

「ツカサクン、ナイーヴねぇ」

「俺が構うんだよ」

行って部屋二つにしてもらおう」

いおいおいさすがにそりゃまじーだろ、フロント

「いやあのな」

部屋に着く。ドアを開ける。

……ダブールベーッド。

「あら。ダブルって、ベッド二つじゃなかったっ 「……おまーな」

け! 「そりゃツインだ」

「しもうたわ……予約探してて『あこれ空いてる』と

かポチッてもた」

すんだこれ。 だろ?」 お前と元口の関係を疑いかけたよ。 付近のホテルとかもどーせいっぱいなん いやしかしどー

「そおよお。 何ヶ月も前から予約が戦争なんだから」

さえその気になんなきゃいーことで」 「まあいいじゃんどーせあたし徹夜してるし、あんた

「いや・・・・・」 「なるの?」

「イヤ!」 「ぱるつぺには内緒にしとつから_

「それはどうでもいい、つーか全員に内緒にしろ」 「あたちとうわちゃになるにょがそんなにおいやかち

「イヤです。」 。ハンハー~ 詫びにメシも奢るは。 、なんでも食えファミレスだけ

7

ど ジメな話俺はいーけどお前ホントいいの?」 「いやそれは最初から条件に入ってただろ。

「いいよん。ほれ荷物置いて出撃」 「ああもう行くのか」

ノッ |休憩しちゃう?|

「おまホンマな」

「ジョーダンジョーダン。

……ちょっとこれ画材なんだけど持ってくれる?」

「メシじゃないの?_

「メシ後そこで作業!」

「迷惑客め」

事の起こりは昨日急に、この鈴木のバカが ここは海浜地区に近いとあるビジネスホテル。

じゃ一緒にコミケ行って。 だぜ鈴木のためならなんだってする。わー嬉しい 「ポンちゃんごめん明日明後日土日ヒマ? ああ俺一度行ってみたかっ ああヒ !

「泣かすぞ」ということで」

たんだ、

ウェルカムだよ。

「いつもコンビ組んでるもっちゃんが風邪引いて

人では行けないものなのか?」 「そうなのか。まあヒマはヒマなんだが、それって一

「あのね荷物とか結構あってね、 お店開くわけだから

さ、一人だと休憩もできないのねお金とか扱うから」 「ああ……まあ、確かに一度観てみたいかなと思って

ないわけでもなかったことは確かなんだが……」 「でしょでしょゲージツを愛するものとして」

「いやまあ・・・・・え? 明日明後日って連荘なの?」

「明日前入りで明後日本番」

「うわ気合入ってんなー」

「宿も取っちゃってるから今からキャンセルだとナン

ボも返ってこないし。あもちろん宿と電車賃は持つ」 「……うーんまあ、しかし投下コストに得られそうな

便益がフィットしてない気が」

「わかった。 晩飯朝飯昼飯も付けよう」

「 ん 」 「親友のフリルの似合う可愛い美少女が頭下げて頼ん

でんだから鼻の下伸ばして二つ返事しろ!」

「頭一秒も下げてねーじゃねーか。

まあ、

「イエース。行くよ美術部展。今度も。みんなで」

しょうがねえ、漫研とは貸し借りあるしな」

「いつもホントすいません。つまらないものをお見せ

しまして」

まして 「いえいえこちらこそ。つまらない機関誌を押し付け

クで。 きになる四コマは。懐かしい感じのスラップスティッ 「いやつ。おもしろいと思いますよ、ラン先生のお描 。赤塚不二夫とかそっち系で」

「懐かしい。最高の褒め言葉でございます。赤塚先生

からなくていつも凄い!と思っております。ピカソま と比していただけるなんて天にも昇る夢心地。 ワタクシもツカサ先生の抽象画、まったく意味がわ

意味がわからない。最高の褒め言葉でございます。

でもうあと一歩」

ピカソなんてそんな畏れ多すぎます。ありがとう、浜

村・浜村・浜村淳です」

淳です・淳です・ジュジュッジュ・淳です。

なんでラップなの」

「なんとなく」

「とにかく文化部はおたがい強く助け合わないと

ね!

を稼ぐかだな」 「体制の犬になりさがるぐらいなら死んだほうがマシ 「うむ。それか本気でなんとか甲子園目指して知名度

だー

「こらこら。拡大解釈しすぎ。

んでなんだ、なんか用意するもんあるのか」

「ううん。ポンちゃんは身一つできてー」

でこれだ。

「ういうい」

ュ力はやたら高くてマンガも結構読めるんだけど、い 鈴木の実務能力の低さを甘く見ていた。こいつコミ

リーのひとつも始まるところだが、現実はそうスイ まあこれがラブコメならここから勘違いラブ・スト や、だからか、忘れ物とか酷いからな。

ートではない。

ファミレス、夕食一番混む時間はちょうど過ぎてた

ようで席はあったが……あったが……

る人もいるぐらい」 てて、てゆーかそれ半分ウリにしてて、タクシーで来 「そそ。この三日、ていうか四日間?はこのお店諦め 「……鈴木これひょっとして?」

「げー……みんなスゲェなあ」

テーブルばかりだった。 机の上に大きな紙が散らばってる、つまり作業中の

「ここ一杯だったらネカフェ行くつもりだったんだけ

ど

「家でやってこいよ家でー。こんなギリギリまでー」

「違うの! 入稿したあとに描きたいものが出現する

には単品で八○○円を超えるメニューがひとつもなか た。 奢るというから高価なものを頼もうとしたが、ここ

食い終わってドリンクバーの薄いコーヒーを啜る。

鈴 用原稿用紙にシャーペンで下描き…… 木は早速作業に取り掛かっている。まずは四コマ専

るの」 「八ページのコピー誌予定。 「ってそこからかよ」 B4二枚折ってB5にす

「絵八枚か、 強行軍だな」

いて! 「にや、 てか描いてもらわないと困る!もっちゃん 四枚はもうある。あ! ポンちゃんも一枚描

「え」」

居ないわけだから!」

品、なんだっけ、これが好きな人が買う本なんだろ? 「いやそりゃそーだけど、悪いよ、だってこれその作 絵、 描くの好きでしょ? 得意でしょ?」

俺愛無いし」 「じゃイラスト! イラストでいいから! ピンナッ

みんな喜ぶんだから!」 プみたいなんだったら愛いらないから! 小綺麗なら

絵巧いって。まるでゴッホのように!」 「アタシ知ってるよポンちゃんが本気出せばめっちゃ

「小綺麗ねぇ」

「そういうビッグネームを出しておだてればノると思

うなよ。参考資料を出しなさい」

「ほらきた。 はいこれ」

い』・・・・・どういう意味?」 「このね、この可愛い女の子に見える子が実は男の子

「えーと『俺のお嬢様がこんなにご主人様なわけはな

ドSでこの執事ドMで愛を持ってイジメまくる で、この執事が当然それを知ってるんだけどこの子が **う**の。

を愉しんでて・・・・・」 演じることに快感を感じてて、この執事もそのプレイ けど人前では逆に厳しい執事にしつけられるお嬢様を

余計わからない。

「なんとかラブってヤツだよ。 ラブの方が大事」

「たいせつなものを隠すんだよ。

ングリしてりゃいーのね」 「まーつまりなんでもいーからこの二人がイングリモ 星の王子様も言ってるだろ?」

か? 「時代はアングロサクソンだよ。プリーズ・ゴー・イ グリッシュ・モングリッシュ・エンド・ダルビッシ

「イングリはキツい。仲良くニッコリ、ぐらいでいい

_

「裸の方が引く線少なくて楽だよ」 「有怒ってくるよツイッターで」

「いやたぶんこのゴスロリと執事服着せないと似せる

自信無いわ」

「まあ初めて描くキャラだしね。 許そう」

「あぁ許された……『花の慶次』ってたまに読み返し

たくなるよな」

「あと『男塾』とね」

は動かしながらもかなりの速度で手が動く。いや

さすが漫研のエース。

「……しかしやるねぇラン先生」

ない」 トマチックつすよー。でなきゃ何十個ものコマ埋まん 「ふにゃ? やーこのキャラいつも描いてっからオ

のは 「なるほどな。逆にいいな手を動かす時間が長いって

「えー? 絵は手を動かすものですよー」

「いや俺はキャンバス睨んでる時間の方が長いかな

あ

知ってるよさっきも言ったけど」 ちゃんとした絵描けばめっちゃ上手いの漫研のみんな ンちゃんなんであんな変な抽象画ばっか 描 くの。

けどなぁ……いやなんでそんなの知ってんの」 「俺的にはあれが『ちゃんとした絵』 のつもりなんだ

かして 美 あ あ 術 聞 あ の時間で風景 ζ) れ たら なあ。 『玄関に貼るらしいから勝ちに行け』 先 生に 画の課題出た時にー」 『いつもどお りでい ス

「聞きしに勝る酷い教師だな」って指示が出てだな」

ヤ ツあ いよ。 部 活動でも指導とか 無いからね。ず

「いやでもあれいいと思ったよ、『ん?』とかあたし と自分のやってる。まあありがたいんだけど」

たから奴め、 でも思って二度見したもん。下に『本田宗』ってあっ みたいな」

「奴め、なんですよあんなもの絵じゃないんですよあ

たしの基準では・・・・・」

「おーおーおーキマシタワあーてぃすと様のご高説が

「高説していい?

「イイヨー゛キクキクー_邪魔してない?」

「あたしメロンソーダをカルピスで割って。 「ちょっとその前にコーシーを」 。氷は 無

L

「ヘいへい」

「あとダージリンを毎回一個ずつくすねて」 「やめなさいって」

グって市販のよりさらに出る量が少ないように感じる んだけど、どこまでスペシャルなのか。 ファミレスのドリンクバーに置いてあるティーバッ

……あ、もう二枚目の下描きに取り掛かってる。ス

ゲーなぁ。 いかんかもしれん気がせんでもないような気が若干湧 一枚何ヶ月か掛かるウチらも見習わなきゃ

とりあえずこの依頼品をなんとか……

いてきた。

絵描くようなもんで……あ違う、これが「現物」じゃ ねーか俺何言ってんだ。 の記号で描き直すの……似顔絵から現物想像して似 難しいよな人が記号化したものを一度解体して自 顔

・俺が思うに絵、に限らず芸術には二種類あっ

「『ホンダの絵とそれ以外だ』」 「いいねぇ。言ってみたいねそんなセリフ」

「自分で言うと痛い人だよ」

「そか。いや、じゃなくて、

『慰めるもの』と

『目覚めさせるもの』だ」

「お。 。・・・・・おおー。なんかそれっぽい!」

「だろお!? 「わかった。なんかこう、観てると『はにゃ~ん』て 結構考えたのよこれカンバスの前で」

だ なるやつと、 観てると『うん、よし!』てなるやつ

身緩まるだろ、 ー』とか言うの観るともう自動的に顔がほころんで全 「そそそ。まあそう。子猫持ち上げて両手広げて『に あれがね、ひとつ方向性として」

「だから鈴木がいつも描いてるのとかたぶんこれ」

「わかるわかる。わかるわかる」

「うにゃ。子猫のように顔が崩れるのを……描いてる

本人は結構崩れてんだけどね」

「それが一番さ」

「『目覚めよ』てのはビックリさせるやつ?」

「いや。ここがね、難しくて。 単純な驚きじゃなくて、えーと……人間の認識には

わからんて!」 るっぺがわからん言うてたもんをあたしに言われても 「いや、いや、なるべく噛み砕くから聞き流してくれ。 「あキタ! それダメたぶんあたしわかんない! ぱ

っていて、それがオートマチック化能力_ 「ほう」 えーとね、人間には非常に便利で不便な機能が備わ

29

くかわかんなくてー」 だけど、 「たとえば鈴木がいまこれ手でバーバー描けてるわけ 最初は時間掛かったでしょ一本の線もどう引

「あー思い出すねえ若かったあの頃を」

話しながらカルピス飲みながら手が勝手に描けるよう になるわけさ」 「それを練習や反復、そしてコツを掴んだりして、会

「ほいほい。便利じゃん。なにが不便なん」

「飽きる」

「…ほー。 ····・あー。 ····・・そうかな? そうかも」

からマンガ描くことには飽きないと思うけど、そのキ ャラ描いてること自体は『作業』になっちゃってるだ 「マンガは線引くこと以外に考えることいっぱいある

「と、人間の生活は全面的にこの『自動化能力』に 「うーん・・・・・まあ」

りつつある危機にさらされ続けているのだ!」 力に支えられ、しかしこのために人生は常に灰色にな

「ヒマになったらいいじゃん、昼寝したり、ダラダラ

「ヒマってこともあるんだけど、やってることが全部

したり」

『作業になる』っていうのが辛いんだよ」

「ふむ」

『我々は死すべき運命にあるもの』ということを思い 「この灰色の退屈な日々をぶち破るもの、それは

『正常性バイアス』の突破_

出すこと。 「そこわかんない」

の危機や危険を勝手に棄却してくれる機能が 「人間にはこれまた便利な機能として、 ある程度以下 きある。

を気にして生きてはいないよね」 ぬ確率は誰にも等しくあるわけだけど、 れが正常性バイアス。 簡単に言うと隕石落ちてきて死 ほぼ誰もそれ

「あー」 「交通事故で死ぬ確率が年間二万分の一ぐらいあるん

だけど、これもまあ気にしないだろ」

活の質が著しく落ちるので、人間は勝手に『死なな い』と思い込んで生きてくれるようになっている、が、 「そんなことに一々怯えていたらQuality of Life、生

当然これが、」 「ああ、退屈を加速するんだ。

で世界に色を取り戻す、とこういうわけね」 だから『死すべき運命にある』と思い出させること

33

「そうそうそう。どお?」

うん。 「そこまでは納得した。ポンちゃんはそっちやりたい

れって眠らせる方なんで、目を覚まさせる方と逆に突 っ走っちゃうんだよな」 いや、『子猫ニー』の方もいいと思うんだけど、こ

「対処療法というか、肩凝ってマッサージというか、

なるほどね」

確かに一時的に楽にはなるけど、肩が凝る生活を改善 しない限りずっと肩は凝り続けるわけで」 「一生辛くなったら揉んでもらうって手も無かぁ無い

す方向なので、オススメしない。それを意識しつつマ 「それは『凝りの原因』という根本問題から目を逸ら

うするとマッサージ自体の効果も落ちるし」 ッサージしてもらうのは構わないと思うんだけど、そ

「病は気からっつーからねー」

……いや現代人に限らないのかなあ、『子猫ニー』の 「俺気になるのは現代人はストレス溜まってるからか

「まあねえ。

方ばっかり求めるのさ」

でもそこはホレ、『アートとエンターテイメント』

とか、『芸術と大衆娯楽』とか、一応ジャンル分けさ

「それだよそれれてるので」

そこがまたよくない!」

「立ち上がったー!

けっしょ? え? だって風邪薬は対処療法として呑めばいいわ だから分けてあるってことはいいことじ

「そっちはいいの。 逆。

やん」

覚めさせるものである以上はだな」 だから芸術っていうのは相手の魂をシェイクして目

『これからビックリさせますよ』

「ああ。

って言われてビックリはしないわね」

「ご名答!」

「ポーズはいいから。

こっちがビックリするよ。

ポンちゃんさ、漫研おいでよ。

すぐ二人目三人目の

彼女できるから」

「一人目が居ませんて」

「春ちゃん泣くよホントに」

未だに真剣理解できんのだが」 「なんでおまえらが俺とあいつをくっつけたがるのか

ーもーイライラする!」 「くっつけたがってんじゃなくてくっついてんだよあ

テンポラリーアートがどうしても胡散臭いのは『それ もののヤバさはそこにある。いわゆる現代美術 っぽい』って時点で負けてんだよまあいえば。 なんで鈴木がイライラするんだ。 まともかくそういうことで、『いかにも芸術』って 全部が

「にゃるほどねえ。それは結構なんかスッキリするご

全部じゃないけどね」

意見よ」 もうたとえば『ロックの大御所がワールドツアー』て に旧世界への革命だったんだと思う、んだけど、今は 「ロックとかパンクとかもそうで、出始めた時は確

もうその時点で言語矛盾というか存在矛盾というか、 『体制を倒せー!』

いや、魂としてはあるかもしれないのでー」 「そこまで言うと微妙かなあ。それはそのー、まあ、

39

って東京ドームに五万集めて言われても」

あこんなことしててもしょうがないな、がんばんなき 誰だってマッサージ受けて子猫ニーを観てる時は『あ ゃ』ぐらいはわかってる、けど、なんかそういうゲー 「うん、まあ、ちょっと言い過ぎたかもしれん。 ただその、『それっぽい』ものが一番ヤバイんだよ、

ジツっぽいものに触れてると思い込んでる時はむしろ

深刻に眠っている、 眠らされている、ような気がして

ならん」

「たとえば?

もいいのよ。遠慮無く。誰も聞いてないから。 ここでそういうマンガやアニメのタイトルを出して 発狂し

「俺マンガもアニメも観ないので_

てブログ炎上させたりしないから」

「それが一番キツいわ!

じゃ絵で。

ラッセン?」

「いや。だからあれは子猫ニーなんで.

ああ。

レにお飾りになれば」 「ぜんぜん、お好きな人はどうぞジグソー買ってトイ

「いちいち棘があるんだよね」

「無いって。最高の褒め言葉のつもりなんだけど、ト

イレに飾るなんて」

「そおかあ?」

たりするんですよ?
そんな秘密の小部屋に」 「えっ、だって下半身丸出しで見つめたり見つめられ

「……やっぱりこのしと一応芸術家気質なんだよね…

トだ』とか憤慨するかもしれんけど、本人の意識と もちろん本人が『いや俺のはエンタメじゃなくてア

世上の評価は何の関係も無いので」

「またそうやって世界を斜め見る」

「真っ直ぐ観てるって。俺がACミランの10 番だって

誰もそう思ってくれないじゃないか」 「まあそうだけど」

なんかそのコンテンツに限って本人の意識を尊重し

他のことでなんの敬意も払わんのになんでそれだけ不 なきゃみたいな意識があるのがさっぱり理解できん。

要に検討項目に入れるんだ」

42

て何の躊躇いもなく人間を数値でしか測ってないのが 「代償行為だよたぶん。ビジネスの世界じゃそうやっ なんか歴史的経緯があるのかもねえ」

人類にとって心苦しくて、そこに投影してるだけだ。 まあそれはいいとして。どこまで言ったっけかな」

· そうそうそう。

で、それでなんでポンちゃんは、あの変な線と色の そこまではまあわかったさ。

絵を描くの」

「で、だから、不意を突かねばならん、不意を。

そこは人によって戦法に違いがあると思うんだけど、

だと思うんだけど、ビックリさせないようなものであ すること自体が『修業』とか『鍛錬』と呼ばれるもの いうか、自分にあった戦法を編み出したり磨いたり

るふりをして手に取らせて、実はビックリ!」

ちゃんの絵でビックリはしない」 「……ごめんこれ言うと傷つくかもしれないけどポン

「いや。

させてないのはわかっております。

だから作戦がヘタなのか自分に合ってないかなので

す。

まことにあいすみません

「いえいえこちらこそ。

どうぞおがんばりくださいませませ。

……でもさそんなことを言い出すと……ポンちゃん

満足するような作品てほとんど無いんじゃない?」

「うん、無いね」

「いやまあ、超巧いとかだと『神秘に触れる』という

「巧いとかへ夕とかじゃないもんねえ」

意味で若干揺すぶられることはあることはある。ウユ ニ塩湖の凄い景色をスーパーハイビジョンで観ればそ

りゃ生きてる実感がちょっとは湧くので、まあ、そう いう方向でインパクトがあるものってあるのはあるん

だけど」

「それは、 凄い現実、だねえ」

ン&ドキュメンタリーになっちゃって……それもアー 「そうそう。結局、それ突き詰めるとノンフィクショ

まり無いね」 トだといえばアートだけど、俺のやりたい方向ではあ

「にゃるほどね。

うんよし二枚目下描きしゅーりょー。ポンちゃんは

ど……おわあ!!!

「はつ、はい!?

な、なにかやってはいけないことをやってます?」

「これ……この……これ……これ…… あたしもオチンチン欲しいいいいいいいいい!!!」

「なにを絶叫するかー! あっ、すいません、あの、はい、どうも」

模様なんて、これ、なにこの友情と愛情を入り混じつ たような暖かな目線! これ、これ男だから描けるっ 「だってこれ、この、こんな超いいかんじのラブラブ

47

ら描けるってことで! 相手は誰? やっぱゼッツー てことでSHOW? 「違う違う、気持ち悪いから川崎とだけは想像するの 実感があるから、経験があるか

やめてくれ」

「だってこれこの、 ほら、くぅーーー

なんか出る」

「出すな。頼むから」

「鼻水とヨダレと脳汁、どれがいい?」 「コントロール出来るなら出すなって」

「普通に絵が巧いとか褒めろよ」 「イイナー。オトコノヒトイイナー」

「巧い絵なんか意味ねーって言ったくせに」

「いや・・・・・いやえー・・・・・」

「あーでもこれ凄いいいわ。目がチカチカするぐらい

イイ。ねポンちゃんあたしと組まない? すぐアンソ

ロデビューだよ」

「早い方がいいよ何でも。人生あっという間 「いやー、もうちょっとアートでがんばりたいんで」 「いやー、はい、若いうちしか夢見れませんから」

胸に湧くパトス! パッション! リビドー! こそが、 「ねポンちゃんやっぱポンちゃん間違ってるよ。この 芸術だよ!!」

らう分には」 け取る方半分で。そっちでそうやって盛り上がっても 喜んでいただけて嬉しいよ。作る方半分、受

「こないだネットで見た記事なんだけど、LEGOっ

て会社あるじゃんブロックの」

「そうそう。あそこ経営傾いて、なんとかしなきゃっ 「ああ。踏むと痛いんだよな」

ていろいろもがいた結果、ある結論に辿り着いて」

「なんだろう」

っぱらいしか居ない」 「『好きか嫌いか』を正直に語れるのは、子どもと酔

よ。あれおっそろしいもんでねえ、子どもわかるんで 「……いやーそれは慧眼だねえ。いやホントそう思う

すよあれ。ええ」

「ということで我々酔っぱらいが『ホー!』言ってし

まうこの絵は、素晴らしい」

「ありがとうございます。

てことはあれか、始終酔つ払っとけってことか」

「だいたい芸術家ってラリってるかガキかその両方か

じゃん」

「ピカソとか倫理観壊れてるからな。

素直にコピーしたらいいかんじになっただけで、 まああれだビギナーズラック。わけわかってないか <u>ر</u>

何枚も描いてると変な手癖出てきて良くなくなって

んだよ」

「あーそれはあるかもね あたしが描くと欲求がね、ぶつけてしまう」

ね、まず、まずは正確に描き写すところから、という 「あそれね、良くないのよデッサンとかスケッチでも

出てくんだからー」 ことで『守破離』は正しい」 「ただそんなこと言ってらんないよね萌えキャラ次々

「まあな」 「もっと早く描いてくれてればでっかく印刷して客寄

せポスターにしたのにー」 「いやいや、こんなんじゃ寄ってこんでしょ」

52

あそーだ色も塗ってよ色もー! コピックあるからー 来る来る。 絶対来るよ。だってあたし来るもんこれ。

色あんまないけどー」

「百均で水彩絵の具買う?!」 「えー? 俺マーカー使ったことねーから」

ょ 「……しょこであの、おにぇがいがありゅんだけり

「いやいやいやそこまでせんでええだろう」

「・・・・はい」

「もういちまい・・・・・描いていただけませんでしょうか

•

53

かすんだろ、俺も暇だし」 その! オハー!」 「ホントかよ……まあいいよ、今からそれペン入れと 「イヤッホオオオオオオゥ! 「いや! マジでマジで最高の絵だと思うから! ほいじゃねほいじゃね、る

「……それで褒めてたのか……」

を置いて、奪い合ってる感じなんだけど、奪い合って

この、このキャラと、このキャラの間に、

このキャラ

る二人は、

恋人同士なの!」

「も意味わかんない」

「もわかんないかなこんな簡単な恋のトライアングル

新 すいません」 しいこ のお坊ちゃんはこの お 嬢様 のフ リ

の人

てダメね!」

た子にちょっかい出すんだけど、この に 日に大きくなって には愛憎始めいろいろ制約があるけどこのお坊ち 、るの。 執事は、 お嬢様 雄 事 の存在 0 フリし が Ŕ た

なくてどんどん距離が近くなるの。 んとは そんな二人の間を行ったり来たりすれ違いあ の恋いつかどこかで結ばれるってことは わ りとフランクに付き合えるからまんざらで でこの真ん中の子 な

「よっ、食人大統領」

わからんわ!!」

「わかんないかな……つまり日本を真ん中に中国とア

メリカ」

「ああ、 あー、よーわかった。 最初からそー言え」

「やっぱ脳の構造が違うんだよね男と女じゃ」

「男のマンガヒョーロンカの人がそんな表現してたの 「たぶんな。 なんでそんな例えできたの」

思い出した」

、なんかそんなマンガ無かったっけ、 なんか国

を擬人化したような」

無かったっけ、なんか国人がそんな表現してたの

「あれ? それだっけかな?」

「細けえこたあいいんだよ!」「おま愛があるんじゃねぇのか」

シ奢ってもらってるし」 「男らしいわ……へいへい、描きますよ描きます、メ

「あしたもサーヴィスするわよ。

フシシシシ」

「なんだよ何企んでやがんだ、いーよ別に」

Гвоу.

みない。ぼくいつまでもこどもでいー」 大人の階段とか、昇ってみない?」

「まあ楽しみにしてて。きっとすっごく、ステキなコ

トが起きるから・・・・・」

「起こすんだろ。いやもう変なことやめてくださいお

願いします」

「コミケ会場は周り全部変なんで、まともなことやつ

てると変になるよ」

「それでも俺はまともがいい」

「お前に言われたかねー!」「変な絵ばっかり描いてる癖に」

「くそう」「はい手動かす」

いところなのよ。きっと彼女は、リードされたがって 「その尻敷かれ体質が山葉さんがもう一歩飛び込めな

る 「おま、 あ

いつい るんだ。 俺が知ってる人間の中で一番の頑固者だよあ いつの強情さを知らんからそんなこと言え

してる・・・・・」 「春ちゃんのこと話してる本田君、すっごくイキイキ

「あーもーうぜーーー描きませんよ? れ描きませ

「ああんウソうそん、 お願いんこれ売れるから売れる んよ!?」

からん」

「結局お金なのね……お金だけの価値しか無いのよわ

たしの絵なんて・・・・・

「その価値あったら他に要らないと思うけどなー」

「・・・・・まあ、 それで象徴してると言えなくはないなあ

•

「世知辛い世の中だよ」

「TPPで二次創作全部ぶっ潰されるまでに楽しんど

けよ」

「クソが」

「デズニーにすりゃこっちがクソなんだよ」

があんな黒ネズミ描くか。ペスト野郎が。 。あれ

った 「三人に一人が死んだらしいからなあ」 い黒死病の祟りをお祀りするご神体だよね」

「道真怖くて全国に北野天満宮おっ立てまくるのと同

じ精神構造だよ」

の何十倍だろ」 「いや単に金だ金。プー一匹で年間一○○○億稼ぐら 悪の組織JASRAC一年分。三木助ならそ

「まあじでええ?!

ね 「ラン先生頑張ってキャラ作って稼いでくださいや

7

『くもマン』。赤と青のぴっちりし

た網目スーツで」

「完パクじゃないですかしかも日米双方から」 「俺にオリジナリティやクリエイティビティを期待す

るなよ!
そんなもんあったら二次創作なんかやっと

らんわ!!」

「逆ギレきましたー」

れなかった哀しみを君は知っているか知っているか知 トーリーで作った同人誌が二次創作の一〇分の一も売 っているのか雷電」 「これにインスパイアされてオリキャラオリジナル

す!』『オリジナルはちょっと……』オリジナルはち 「『これ、オリジナルですか?』 「一〇分の一はすげえな。客が」 『はい、そうなんで

「だってそれ鈴木が描いてるってわかってるわけだ

よっと? TPP早く来て!!」

ろ?」

かれたんですか ?? 』 『ランの方です』 『ランさんはい 「鈴木が描いてるから買わねーんだよ。『どちらが描

いや』ニッコー笑ってランさん目の前にして言うから 「オタクスゲー。欲望以外見えてねー。

出て一枚も絵葉書売れなかった経験なら俺にもあ かしそこを乗り越えるんだ。ストリートアートに

る!

「無理だよね」

「無理だよ」

「売れたほうがいいよね」

「いや、そこは同意しにくいけど、 無理なのは間違

ない」

「どうすればいいんだろうね」

「やる前から諦めるなー!」

「諦めるしかない」

「さんざんやって諦めてんだよ!!

お前さんこそあれだ、書店で星の数ほどある四コマ

誌かなんかに持ち込みなさいよ」

よ。三六五日一日中これやってるかと思うとちょっと 「いやぁ……これ趣味でやってるから楽しんだと思う

「日本の漫画家の労働環境おかしいらしいからな。 ま

ゾッとする」

人がなるんだろうな」 かしたぶん、プロになる人はそういう後先考えない

「それはそう思うよ……ハイアマでいい」 「ハイアマな。ハイアマ……

俺もうちょっと頑張る_

「うん。応援してる」

「ありがとう」

「芸大とか受けるの?」

「ああはい理解、意表突けなくなるわけね」 「いや、だから、さっきの理屈を応用すると」

とかで習うものたくさんあると思うんだけど。 「そうそう。音楽とか工芸とかならね、具体的な技術 絵はな

あ……習得技術の必要なクラシカルなものはお好きな

方がお極めになればいいと思うし」

「茶筒とか描きたかないよね。

あーなんか顔が少女漫画っぽいヤツだよな、 新 谷かおる先生の『エリア8』でね」 戦闘機

() 「ポエムも載ってるしね。それでグサッと刺さった

ジイが隊長で」 ピソードがあって、あれ主人公たち空軍の外人部隊な んだけど、 敵も外人部隊雇うの。 歴戦の超ベテランジ

その時の命令は ちの本丸みたいな大部隊へムチャ攻め仕掛けるのね、 「そのジジイが出撃前の最後の訓練だ、って主人公た 『生き延びろ』」

「ふむふむ」

「あわかった、 逃げるやつ出てきてそいつが正解なん

だろ」

が隊長にへばりついてくんだけど、重要人物のマック バーンたち何人かだけ下へ降りて時間つぶしてあとで 「言っちゃわないでよー。そうそう、 ほとんどの隊員

「帰ってきたのは隊長一機だけ」

合流するの」

た。 ーそう! れ読んだ時あたし『社会って怖ぇえ!』て真剣思 。ひとつ何か流行ると、みんなそれ真似するの。 隊長の盾になってみんな死んだの。

で隊長を肥やして、自分は死ぬの。一番恐ろしいのは

考えたりってことを捨てたから、そりゃ死んでもしょ その判断間違ったと死ぬまで思いもしないこと」 「違う、 判断してないから死ぬんだ。自分で感じたり

うがない」 「キツイねー。でも、そうなんだよね。みんななんで

あんなに隊長についていくんだろ」 だから言ってるじゃん判断したくねーんだ よ。こ

脳 裏付けのない本田理論なんだけど、判断っていうのは なるべくそれをしたくない。で、それを前提に生存戦 略を考えると、 がフル回転するから高コストなんだ、だから人間 『みんなやってることをやる』という

破滅』っていう可能性がある戦略なんだ。自分で選択 とが間違ってる場合、レミングってこったね」 してれば破滅してもすくなくとも納得はできるからな。ス 「そうなんだよ。低確率かもしれないけど『理不尽な 「その戦略の最大の問題点は『みんながやってる』こ

のが最も低コスト標準リターンになる」

器買う時に でも人間はこれを選ぶ。おっかしな話で、あんた炊飯 てな炊飯器買うか?」 っとするといつか爆発するかもしれません』 『これが一番売れてます、性能は普通です、でもひょ

は降りて後から合流したいわね。 「あたしに怒られてもわかんないわよ。まあ自分だけ 「なんでつぶるんだ。一番クリティカルなことだろ」 いから最後の一文に目をつぶるんだって」 。 ……あたし教育って

さし

けのことだと思うんだけど……現実は、逆」 どさ、要するにつまり『むやみに隊長についていかな いように。よーく自分で考えようー』って癖つけるだ 「親でもないし先生でもないあたしが言うのなんだけ

「真逆だよなあ。隊長の真似をどれだけ巧くやるかな

えけどな。 だから……いやまあ、ガッコはある程度しょうがね 職業訓練でもあるわけだし」

時世なんだから、じゃ誰が教えるのそれ」 「でも親も『人並みに』とか『公務員に』って言うご

「『エリア8』だろ」

「……あはっ! ははっ、そか。わすれてた。

あーガソリン切れてきた。追加注文していい?」

「うん。家だと飴ちゃんとかチョコとかチェーンでモ 燃費悪いなあお前」

リモリやれるんだけど」 「じゃ注文するっきゃないな。ポテトとかつまみつま

み行くか? それかやっぱスイーツ?_

「キムチチゲセット」

ぴんぽーん

「……えーとすいません、 追加で、キムチチゲセッ

「ライス大盛りで。卵は生卵で_

「と、バニラアイス」 「と、ビッグプリンサンデー。

……とこのような不断の努力によりこのトランジス

タグラマーは維持されているのです」

「前向きであることには賛成だが売買春を援助交際と

言い換えることには反対だ」

リですよあたしゃ」 「サモアやトンガじゃ栄養失調を疑われるレベルのガ

「ここは、たぶん、日本」

「男なんてもういいの! 私にはBLが……BLが

るから!」

「男じゃねぇか」

四三過ぎて独身だったらポンちゃんが貰ってくれる

って」

「縛られないのか縛られたいのかどっちかにしてくれ。 「いいよぱるっぺとなら一夫多妻でも。 あとポンちゃんの厄年開け」

とか思い上がってるのね。ここに付け入る隙がある」 つか春とくっつけるな、っつーの」 「ぱるつぺは超プライド高いから『私が正妻だから』

75

「妄想を勝手にブーストさせるな。 マンガ家向いてると思うけどなあ」

「そか。この三角関係をオリジナルでひとつ」

「『この』とか言うな。そんな関係存在しねー」

76

んだ。 ンちゃん」 「酔っぱらいですな。 「だんだん妄想と現実の区別つかなくなってきたよポ しかもここ・・・・・」 祭りの前日はだいたいそんなも

いうか。 ちょっと見渡すと、 死屍累々というか、 野戦病院と

「……みんな、凄いな」

「にゃにをおっさいますやらチェリーボーイ。あし もっと、凄い」 た

「へえ。 「やんちゃな新兵を見る古参軍曹の気分_ 期待しておこう」

_ _ _ _ _ _ _

「死なないようにはしてやる」

「イエス・サー・イエス」

「サー・イエス・サー」

「サー・イエス・サー・イエス・サー・イエス」

「いいからちゃちゃっと仕上げてコピーして製本し 「ポンちゃんも壊れかけのレイディオ」 いう先生。もう、締め切りが」

「ああなんかかしずかれてるといい旅夢気分」

別にかしずいちゃねー」 これだ! <u>_</u> れがこのお嬢様役の子の気分!

ま

やっとわかったわ! よぉおし、もう一ページ追

加! 「やめてー。来月、 来月特集組みますから先生ー」

「カラー面倒だからって嫌がるの先生じゃないですか 「巻頭カラーくれる?」

「は なんか湧いてきたーーー

「夜中でテンション壊れてるだけですぅー。

おとなしそうなのに偉いなあ」 元口さんいつもこんなのの相手してるのか。 あの子

「もっちゃんがおとなしい?

……ほれこれ。前回のウチらの」

「お。これを早く見せてくださいよー。どれどれ・・・

:

巧い。ただどこがツボなのか本編読んでないからわか 鈴木先生のほのぼの四コマは絵柄が可愛くて普通に と、絵柄が変わって難しい漢字のペンネームが

……これが元口さんか。

・・・・・うおっ。

「鎖、鋲、十字架。そして鞭」

「アンド薔薇」

「最後燃えてますよ画面全体的に。人も建物も」

ズ 「そして愛も。萌え&燃えがウチらのキャッチフレ

「いやこれは燃えっていうのと……弾けてるな元口さ

「ああいうタイプほどキレると怖いのよマーマレード

「本編読んでないから評価できん。どっちも単独で成 「……ぶっちゃけどっちがいい?」

「キツイなあんた」立してないので」

「ぶっちゃけろ、つーから。

ま、絵ならランののがいいよ。ちゃんと描いてる。

からすると魅力はないね」 元口さんのは記号組み合わせ絵だから、俺みたいなの

「よし。

どもっちゃんのの方が絵もウケい

「だろおなあ。そりゃわかるよ。

みに聞こえますが、しかし今宵は特別に、 まあれだ、 、ワタクシごときが言いますと単に負け惜 別に鈴

「大きく出ましたな」

木さんに宇宙の真理をお教えしよう」

売上と、 評価と、完成度の間には、 それぞれなんの

関係も無いから、 気にすんな」

「いいねその諦め」

かと相当いろいろ研究したんだけど、 の三者の間に相関関係や因果関係があるんじゃな 俺の結論 は

『ない』だ。

がけてまっしぐらでいいんじゃないかな」 だからまー、それぞれ自分がこだわりたいどれか め

「完成度高いと評価高くない?」

無い。

は 何段も上だけど、 いま言ったろ? 元口さんの絵のがモテるんだ 鈴木の絵の方が絵としての完成度

ろ?」

「まあ。けど・・・・・

「関係無い。

考えるな。 絶対無駄だから。 そんなことに無駄に人

生使ったのは俺で最後にするがいい」

「ここになんか関係あると思い込むからスゲー労力を 「またも大きく出ましたな」

無駄に使って、 なにか一つに邁進してる奴に負ける。

曇りが出るのは避けたい。 まあそれはどうでもいいけど、肝心の製作そのものに

プリクラの最初の機種ってすごく画素数が少なくて

さ

「ほお」

りの人はそれなりに写ったからみんなが楽しめたんだ。 「ボンヤリ写ったからこそ美しい人は美しく、それな

点どころか長所だった。すべての要素は文脈、コンテ ものも時代や社会に依って立ってるわけだから、 が独りで思い込んでいろいろ考えてることなんか、 キストに依る。売上や評価や、完成度と思い込んでる の文脈でいうと、『綺麗に撮れない』ってことは弱 自 分

そらく全部無駄だ。ましてそれの組み合わせとか関係 なんかわかるわけねー。

いうのが正確なところだわさ。

『出してみんとわからん』

いう目標があるなら、それをやればいいさ。ウケる ・の・で、まあ愛を持ってこのキャラが描きたい

とか考えんでええ」

「まあでもウケたいよね」

「ウケたけりゃウケだけ狙えってことか……」 「まあ、やるからにゃ、ってのはわかるけどな」

きなように描け、ってこった」 「違う違う、ウケるかどうかなんかわからんから、

「……ぱるっぺよくこんなキツイ男と付き合ってん

な」

二人なんか金婚式カップルだろおらぁ。このデミ・ム 「だから付き合ってねーつってるだろ」 「ホルモン焼肉屋で上ミノでポッキーゲームやってる

す人最近居ないよ。俺は幽霊かよ」

「男役の方の名前忘れたんだもん。 ロジャー・ムーア?」

ロジャー出てきたら超おじいちゃんになってて夢ガラ 「こないだ『TOP GEAR』でボンドカー特集やってて

「男前タイプは歳取るとキツイよねえ」

ガラ」

「ショーンはうまいこと歳取ったんだけどねえ。 あのな鈴木。マジでその妄想を外部に垂れ流すのは

やめろ。 俺はいーとして春が迷惑するだろ」

「いや……もう描きませんよ?」 「俺はいーんだ」

「すみません、もういいません。描いてください師匠。

けどそんじゃーさー、なに、もの作る時のターゲッ

「人間さー、やっぱウケたいとかさー、売れたいとか

「ターゲット?」

が無いじゃんよー」

たいって思うからさー、どうしてもさー、それもまた 、褒められたいとかさー、感心されたい尊敬され

燃料であることは間違いなくって!」

「ああ。

よくて、ただ、『ウケ狙って描きゃウケる』って思う うんまあだから適当にそのへんは各自持ってて別に

な、って言ってるだけ」

「えー。だーらー、じゃどーすりゃーいーんだよーお

ーおーおーぽんちゃんさんよー」

「そこで!

通称『安冨ドクトリン』!」俺が応用したのが!

「ポンちゃんポーズは止めなよー。 店員さんきちゃう

よし

「勢い付くもん。

安冨歩という稀代の天才思想家が居て、あ、 俺がこ

んなに人褒めるのはなかなか無いこったよ」

「それ知ってる」

「この人が『創発』という、『人間の価値を生み出す

力』について研究を重ねた結果」

「ソーハツ?

『AKIRA』みたいなもんかね」

うに生み出されどのように発揮されるか考えるのは今 の人類にはたぶん不可能なほど複雑玄妙、簡単にいえ 「あそーそーそー。で、結論が、 このチカラがどのよ

91

由自在に使いこなせるようになる、なんてことを考え ること自体が自然に対する冒涜であると」 「じゃなに、つまりよーするに『おもしろいマンガが 「ふむ」 「そんなことを研究の結果、完璧に理解したうえに自

ば宇宙の神秘であって」

描けるようになる方程式』は無い、ってこと?」

「そのとおおおおおりハンターチャンス!」

「キヨシとヒロシを混ぜないでさ。

じゃどーすればいーの」

「で、考えられたのが、『創発』 を阻害するもの、こ

おのずから『創発』が発揮されるであろう。 はおそらく記述可能であって、これを排除すれば、

ないだYouTubeで観たんだけどさ、九歳の少女

が

「あー観た観たそれ観た。めっちゃくっちゃ歌うまい

ヤツつしょ」

な才能がおそらく誰にも眠ってて、あとは発揮される 「そそ。 歌に限らないと思うけど人間にはすでにあん

のを待ってるんだよ。

ゴッホ九歳の石橋の絵ってのが残ってるんだけど、

元璧_

ざとへ夕に描いてる、ってことか…… 「あたしたちゃそれをギューギュー押さえ込んで、わ

ガックリくるだろー」「そうだ。

い。たまに描いてて辛くなることあんだよね。なんで 「……うーん、でも思い当たるフシが無いわけでもな

こんな苦行みたいなことしてんだ、って」 「だからそれは、描くべきではないものを描いてんだ

よ

「・・・・・わかる。

でその、『阻害するもの』って?」

「安冨さんは端的に『暴力』と表現してる。ハラスメ

「ああ……なんとなく、だけどそうかもしれん、と思 強制力

うねー」 「好きでもないキャラ描いて、って言われた時の何と

も言えない感覚な」 でも描けると思ってるからね素人さん!」 「わかる!? そうなんよあれ困るんホントに! なん

「俺こないだ親戚の子にプリキュア描いてくれって言

「ああ、ああ、んで変なの描いて微妙な顔された?」

「完璧なキュアエース描いて超大喜び」

「釘宮ヴォイスが聞こえてきそうなほど」 「描けるんかよ」

「わかったから」

「愛の切り札ツ」

誰かこのマイクロ岡本太郎止めてー」

「わかったっつってっだろ!

「ナノピカソとどっちがいいかな……

差別とか、あるいは物理的に見づらいとかそういうダ メージ要件じゃないかなあ、と思ったりする。ちょっ こと創作に当てはめると、俺はそれは暴力に加えて、

と言葉にしづらいけど」

「ああでも同人誌でやっちゃいけないことって、そん

な感じだね。

されるもの、それと物理的に印刷が薄すぎるとか汚れ 差別的表現、 あまりにも露骨な暴力と性……要は隠

「逆に言うとそれ以外はなにをやってもいいと思うん

てるとか乱丁落丁誤字脱字」

だ」

「ああ・・・・・

あれ?

いやだから、 酷いこと以外何してもいいってのは

ーんだけど、じゃなにをターゲットに_

「そりゃ主題、テーマだろ」

「これ、このキャラ達可愛いなあ、ずっとこの世界で 「テーマ……テーマなんか考えたことないッス」

「それでいーの?」

楽しんでいたいなあ、でいーんじゃないの?」

「それ以外の何があんだよ。

俺の絵なんかもっと無いよ?」

伝えたい主題があってそれを衝撃的にぶつけ でもそれ『子猫ニー』に戻ってない?」

てるんだから、芸術だろ」

「え、だってこれエンタメって……えー……」 「つまり『子猫ニー』も極めれば芸術ってことで」

「分類すること自体が無意味で恣意的な行為なんだか 「いやそれは言葉遊びだな納得できないな」

えたいと思って描いてりゃそれは芸術だし、 鈴木がこのキャラの可愛らしさを誰かに衝撃的に いつでも解体すりやいいだろ。 ただ自

自身が楽しい絵を描きまくって本にしたいという欲望

方どうでもいいじゃないか」 に従ってるだけならそれはオナニー同人誌だし、呼び 「じゃアートって言っていいのこれ」

たいで気持ち悪ぃー 「あーなんかジゴロが無茶苦茶な理屈で口説いてるみ もちろん。本人以外誰にも否定できん」

ラン、これは、 素晴らしい、 芸術だよ!」

「失敬な。

いで気色悪いーー 「うわあー綺麗可愛い美しいって言いまくるバカみた 君は本当にワガママレイディだな。

のだよ」 かしそんなところがボクの恋心を燃え上がらせる

「ゲロゲロゲロゲロゲロゲー」

「ホントに吐かないでくださいよ先生」

「そりゃこの時間にキムチゲとプリンサンデー一緒に 「カモ茶アイスで作ってきて。キモチワルゥで_

食べりゃ気持ちも悪くならあな。かもちゃ?」

「カモミールティー。

あやっぱコーラゼロ」

「ほいほい」

「あやっぱ普通のコーラー」

「ヘンペン」

-ゲビゲビとコーラを流し込みながら、 鈴木先生

は らか列はなく(並ぶ時もあるらしい)五○部が刷り アミレスを後に、コンビニに向かう。 なんとか原稿を完成させた。 長年お世話になった 幸いにも遅いか

「……五〇も刷るんだ」

がる。

何言ってますかウチなら一〇〇でもヨユーで捌けま

すぜ旦那」

「やるなあ、ビッグサークルですなあ」 「絵なんか売れやしねぇってこたよく知ってる_ 「なかなか捌けないってよく知ってるね」

「売れやしないよねー」

着 いて問題はもちろん解決していない。 と、どうでもいいことを話してるうちに部屋に

「……しょうがねーな、下のロビーで夜を明かすわ」

「いやー……なんかね、んー、男の美学だと思ってく 「えー悪いよお、 あたし全然かまーないよ?」

「じゃあたし下行くよ」

「いやそりゃおかしい。 あんた明日が本番なんだか

5

「うんそう言うと思って一応」

「コヤツ!」

「じゃあたし上

上?

「ぽんちゃんの上で肉布団になるよ」

「悪い夢しか見んわ。

まあホント気にすんな。 変なとこで寝るの慣れてる

埋めて『……いくじなし』って囁いたげる」 「ゴメンね]。 お詫びにドア閉めて出てったら枕に顔

勝手に言ってろ。

明 何時集合」

一時一」

「はやつ。ま、 早い方が か。

そいじゃーなー。 明日製本手伝うからもう寝ろよ

いくじなしー」

「おやすもー」

゙゙……おやすまん……_

ドアの隙間から見えた鈴木は、ダブルベッドの真ん

中でぶつ倒れるところだった。

やれやれ。

半眼。 はそこそこのソファがあってそこに身を委ねて腕組 。なんといっても都合よかったのがここでまだ作 -ビジネスホテルにしてはそこそこ広いロビーに

すげえな、みんな。

業してる人が三組ばかり……

だけど、爪の垢煎じて飲ませてやりたいよ。 部の発表でも最後ヘタレて出さないヤツがいたりす まあ気持ちはわかるんだけどね。でもできあがらな

きゃ何もはじまらんから、 ち上げんとホント全部無駄になるんで…… そこはなにがなんでもでっ

か独り言ちつつ携帯のアラームをセットし た瞬

落ちた。

まだ寝てるかな、 と躊躇せんでもないが俺はタ

*

ムスケジュール知らんので起こす。

コン・ココンココンココン。

「はーーーい!

ガチャ。

「ポンちゃんおはよーー! ごめんね昨日はホントに

バスローブ一丁。

いや別に・・・・ておおい

なんてカッコだよ!_

胸でけえんだよコイツ。 目のやり場に困る。

お湯も換えたから入って入って!」 お風呂入ってたから! お湯沸いてるよ! ちゃん

「え、 いや、あー・・・・・いただきます」

さすがに冷えた。 風呂はありがたい。

……このユニットバスってなんでいつまでも脱衣の

ことを考えんのだ。棚ひとつふたつ作るだけだろ。

「ぐーすか寝たー」「少しは寝れたー?」

「さっすが部室宿泊率をウチと争う美術部!」

「しかしスゲーな、あの時間まだ原稿やってた人居た

ょ

呂あがったら裸体で出てきてねー」 「もうテンションおかしくなってんだって。あ、 お風

なんだそりゃ。 ヌードデッサンか」

「朝から男体盛りはせんわ」

「んなこと言ってねー」

痺れがとれる程度にあったまって、さすがに下着は

つけて、出た。

「オッケーイ! じゃこれ着て!」 「は? てかおわあ! スゲエカッコだなおい!」 「・・・・・ほーい、 これでいーかー」

鈴 木は全身超ロリロリのピンク甘甘ドレ……あ、

れって

「そ! 『俺おじょ』の!「まさかコスプレ!!」

あたし

お

嬢

様ポンちゃん

執事

「ヤだよそんなの恥ずかし 17

「大丈夫だよ執事ファッションだから! 服み

た

いもんだから!」

いだろ」 んな殺風景な海浜地区 |燕尾服で歩いてるのがお

あたし横にいるから完璧コスプレだってわかっか

ら 「いやわかりゃ恥ずかしくないってわけじゃない だ

「女の子に恥かかせる気!!」

「なんのキレだよそれ」

ろ

「あたし一人コスプレじゃもっと恥ずかしいじゃん_

は嫌だろうと思ってー」 けど、慌てて変更したんだぞ、半ズボンに蝶ネクタイ 「もっちゃんだとお坊ちゃまの方やる予定だったんだ 「いや……えー? それ脅迫じゃねーのー?」

かにそれはヴェテラン芸人みたいで辛いが」 なんで恩着せがましく言われにゃならんのだ。 ま 確

の短パンで七三分けのポマード頭を」 「……でもハイソックス似合ったかな……ぴっちぴち

「着りゃいいんだろ着りゃ」

毒を食らわば皿までだ。

「ふふ。二人の結婚式みたいだね」 もう親戚の結婚式にでも出ると思って。

「うるさいよ」

「こうやって執事コツコツ虐めるの。 お嬢様役の子」

「それ完全にプレイじゃねぇか」

チャしてる話なのね」 「そうなのよ要するに周り巻き込んでずっとイチャイ

いんだよな、 「まあそういうのって延々終わらんから連載続けやす 『めぞん一刻』とか」

「『おもしろい』に流行も、 流行遅れもありません!

「古つ」

ミスタードーナッツ!! 」

「……あでも似合うめっちゃ似合う。 やっぱあたしの目に狂いなかった、ポンちゃんにピ

ころ」 ッタリだこの優柔不断てか考えすぎて空回りしてると

「悪ぅござんしたね」

しよ? 「あたしどぉお? 小動物っぽいところがぴったりで

「小動物つーかポケットモンスターって感じだけど

な」

「照れるな」 照れてねえよ! おまどうやったらそう自分に都合

のいいように都合のいいように解釈できんだよ!」 「日本の学校教育をまともに受けてないからね、性格

が歪んでないんだよ」

「受けろよ!

・・・・・あれ、 複雑な家庭事情とか、あった?」

「ううん。絵に描いたような中産階級だぜウチ。

皆勤」

「不必要に元気だなオイ」

「バカは風邪ひかんからな!」

「羨ましいよ」

「だって先生て教科書に書いてあることしか 言わ な

じゃんそんなバカの言うこと聞くヒマ俺の人生には

無

本中の先生方に怒鳴り込まれるよホントに」

仕事だから、それしか教えないのは」 師走だしね」

「だったら家で自習すりゃい ーじゃんかー」

「なんだお前昨日から学校に恨みでもあんのか」

特に無いよ 授業中ヒマだからいっぱいマンガ

……よし、こんなもんで!

け

たしね

行くよ、マーヴェリック!」

「マ、マー? 俺の名前?

「うん。あたしはジョセフィーヌ。本当はジョゼ。

面 に『ジョセフィーヌお嬢様』、プライベートでは甘 によって使い分けて。公的な場ではキツ目に 冷ため

囁きため息混じりで『ジョゼ……』」

「そんな高度なことできるか」

「やりもしないで諦める、そういう人間が一番つまら

ります……ジョゼ、お嬢様……」

「西堀栄三郎出されると弱いな……わかりました頑張

「ジョゼの時は男の子!」

「ああもおめんどくさい!」

「めんどくさい方がお金が儲かるんだよ、 官僚に士商

売ぜんぶそう。不要に面倒にして手間賃掠め取る」

「おまえ日本のシステムに相当恨みあるな」

「無い無い。ジミントーサイコー」

「ヨダレ垂れてる、ヨダレ」

「七時にメシ始まるから席取るぞ!

行くよマーヴェリック!」

「はいお嬢……じゃない、ジョゼ……ハー」 ため息つくな。これから出陣じゃぞ」

「お前がつけっつったんだろ。

のバカデカイトランク何入ってるんかと思ってた

らこれだったんか・・・・・」

てた

――チーン。

エレベータ降りた瞬間から若干後悔した。

視線超痛い。

観た人顔ほころぶのがまた辛

なにこの作品そんな人気作品なの?

「うい頼む。あ、 席 とっといてあたしご飯取ってくる! 和系で」

ヴェリックだから」 ほいさ。 ・・・・・あ。違うわ。 いまジョセフィーヌとマ

……えー? ロールプレイもやんのー?」

「『病は気から』だよ、ポンちゃん」

「ヨレヨレ。

……えーお嬢様どうぞこちらでお待ちくださいませ。

わたくしが朝食をご用意させていただきます」 「ありがとう、マーヴェリック」

『俺おじょ』のお二人

「……あ、あのすいません!

ですよね!」 「あ、はい、いや、あの」

「写真、いいですか!」

「えー」「ハイもちろーん! ……こういう感じ?」

120

イメージぴったり! 「ハイ!あの、 執事さんの嫌がり方とか最高です! 実写版に推薦したいぐらい!

「はあ、ども・・・・・」

「ウチ、 東5のポの二七なんで、来てくださいね~」

「はい、絶対行きます!」

「え、えー」「、、私も一枚!」

「そのあとこっち目線お願いします」

「はーい、順番にお願いしますねー」

メシ食えるのかわしら。

てかこれ一日続くのか。

と重い。 汁となんか小物を腹に詰め込んで、コンビニで昼飯と お菓子と水分を買い出しして執事はそれを持つ。わり なんとかおにぎりとクロワッサンと焼きそばと味噌

駅で電車待ちの間にも声掛けられて写真撮られて・・・

:囁く。

「……鈴木うまいな客あしらい」

「年季入っとるわい。つーかポンちゃんが決まり過ぎ

てる。夏もこれ着たけどこんな反応無かった」 「そうかねえ」

「ジェリーだけじゃダメなのよ、 トムが居ないと」

けで」 「.....そだね。ネコのがいっぱい居るね。フェリック 「いっぱいではないと思う。巨砲がそそり立ってるだ 「ネズミいっぱい居るから」 「わかるようなわからんような」

123

ス、ガーフィールド、マイケル、キティ、ひこにゃん

あずにゃん」 「ドラちゃん」

「ロボットにもなんか恨みありそうね」 あれは家電じゃん

チクリ」 「愛する家庭の家事は わたしが独占したいな目をパ

ゃんかー」 「一ミリも思ってねー」 「ロールプレイロールプレイ」 「猫型ロボットって本人が歌ってんだからロボット

とかなんとか言ってるうちに国際展示場最寄り

「いまプライベートモードー_

駅について・・・・・っておうい。

の入口向かってぶおーっと・・・・・ なんか人の道が、黒い頭の絨毯みたいなのが、 建物

「・・・・・これ、なにさ」

「スゲェだろ」

「えつ、ちょつ、これ」

みくださーい!」 「サークル入場の方はこちらでーす! 左へ左へお進

「こっちこっちこれこっち、あたしたちは」

「ひゃー……これ並ぶのかと思ってヤな汗掻いたぜ」

みんな並んでるのよこの寒い海風吹きすさぶ中早い

人は徹夜でー」

「死ぬじゃん」

「死なんのよこれが。 燃える心があるから」

「夏はどーすんだよ」

「心頭を滅却すんの」

「人間って便利だな……そこまでせんでもええやろ

う

「お祭りは、どれだけ、 『そこまでせんでええ』って

ことをするか、だから。

でなきゃだんじりや御柱祭で死人出ませんて」

に完全犯罪ミステリを書こうかと思った」 「しかも当局黙認だからなあれ。俺昔それをトリック

ブースに辿り着いた。足元にはかなりでかいダンボー 「だから止めたんだよ」 「ドサクサじゃん。ミステリでもなんでもない」 なんか妙に延々歩かされて、やっとこさっとこ

127

ル二ケ。これが新刊てヤツか。

「ええ、まずはマーヴェリックには宅急便の受け取り、 「……なにすりゃいいの……ですか、お嬢様」

それから次回申込用紙の購入を。わたくしは設営をし

ておりますので」 承知いたしました。 ……受け取りって、なんか控え

様 کے はずでえーどこだ封筒?」 「あ。え、ちょっと待ってえー確か封筒に入れとい かあるの? えー、 あるのでありましょうかお嬢

お嬢様そんなに慌てられなくても」

「いやマズイマズイ、控え無かったら設営小物が」 お嬢様ガニ股でいらっしゃいます」

ロールプレイ止め、めんどい!」

た

128

「承知いたしましたお嬢様」

「あでも お嬢様呼ばわりはしてもいいのよ?」

「いいから控え探せよ鈴木」

「ドSだー! この執事ドSだー!」

「もーこっちじゃないのか昨日画材入れてたトート

「あ! それだ! そっちそっち!

……ほらあった! さっすがマーヴェリック!」

「先が思いやられるよ」

に全部まかせてたから!_ 「大丈夫大丈夫安心して。あたしいつも元口っちゃん

「その前歴で俺はどこをどう安心したらいいんだよ。

宅急便受け取りってどこだ」 「えーちょっと待って待って、 ここに書いてあ・・・・・

「あーもーこの紙だな、見とくから片付けろ」 参加用紙が!」

あ!

ザバザバザバザバザバザー……

机の上の山のような業者チラシ、派手に床に散乱ス。

「えーだって荷物重いもーん。 ・設営俺がやろうか? 宅急便受け取り行く?」

「わかったそれもやるから次回申込用紙とやらを買っ ボク、 スタイラスより重い物なんか持てない」

「あーい」

てこ

Γ Λ ?

るらしくて、 元口のサークルは新刊とやらを毎回一冊 ドタバタジタバタと設営がなんとか済んだ。 既刊の在庫が無い分シンプルで良い。 出して売り切

げえな同人誌。あれこ なんか特色だよねこのピンクとか。えー凄いなあ、 刊はなかなかカッコイイぴっかぴかの印刷だ。す れPPコートもしてんじゃん。

掛かってんなー。こりゃそりゃ一〇〇〇円で売るわそ かしやっぱ元口の絵の方が正直表紙にはいいよな。

使い古された表現だけどシズル感があるってヤツだ。 んで開けるとまず鈴木のほのぼのがあるので気分を温

めて、 また鎖・鋲・十字架だ。そして薔薇。 ほっこりしたところでいよいよ元口の……わあ、32

新刊と、昨日描いたコピー本……ホチキスせんと。

まあしかしよく出来てる。

:ぽん吉、ちょっと悪いんだけど製本お願いでき

る? 「この作品さー、やっぱおかしいって。キャラ全く安 挨拶回り行って来たくて」

定してないじゃん」

られないから。アイドルのカラオケと同じ!」 「だからウケたんだと思う。どんなキャラ描いても怒

「そおかなあ。

てか挨拶とかそんな風習あるんか」

気分盛り上がるし。あもし誰か来たら挨拶行ってます って言っといて。スケブは受けちゃダメよ」 別に行かなくてもいーんだけどやりとりあるとね、

「すけぶ?」

うの。ウチだいたいもっちゃんだから今日受けても描 「スケッチブック持って来て描いてください!って

なるなる。

けない」

…鈴木を見送って、 ○度回転するホチキスで二枚のB4中綴じる。 抱えの新刊をトートに突っ込んで出発したお嬢 かちゃんこかちゃんことメカ部

れ便利だな一個欲しいな、使い道は思いつかない

けど。

はどうぞよろしくお願いします~」 「あ、はい、どうも、よろしくお願いします」 「すみませーん、実行委員会の者ですけれども、本日 「参加カードと新刊の見本誌をいただきたいのですが

ドさっき見たな、えーこれですか」 「あ、えと今主幹が外出してて……いやえー参加カー

「あはいそれです。あ、ここ判子かサインを……」 「あ、えーと、えー・・・・スズキ、と」

「はいありがとうございます、で見本誌の方……」 「あえーっと新刊ですよね、えー……これ!」

「・・・・・あの、 見本誌シールを貼っていただきたいんで

すけれども」

「へえつ? え、えと」

「あ、シールお忘れでしたらこちらにありますのでこ

こにご記入を・・・・・」

「あ、 はい、え、受付番号? えー」

「あ、 「あはいすいません、えーっと・・・・・」 それはこちらの参加カードにありますので」

サークル『ローズ&リリィ』。

欲張りなサークル名だなおい。

:ありがとうございました。

「はい! では本日一日、がんばってください! そちらも! ご安全に!」

鈴木ー。

だいじなことから教えといてくれよーう。 と思ってると、帰ってきた。

んどる。 なんかトート一つ増えててどっちもパンパンに膨ら

「いやーごめんごめんやっぱこの服威力抜群でさー」

「だろうなあ」

「どこでも『あとから執事連れてきます』って言っち

やった★」

「おうい」

だって。差し入れ貰った」 「まま、 休憩がてら休憩がてら。ハイこれ静岡のお茶

「センキュ。……差し入れかあ。つーか立派な先生様

じゃん

「まあたしごときがそーゆー気分が味わえるのも即売

会の醍醐味よ!」 謙虚性があるうちは健全だな。 あなんかスタッフの人来たぜ」

「あホント? 見本誌シール書かなきゃ!」

「テキトー書いて出しといた」

ر د ۲ 「元口と出てくれ」 「ホントに! うわぁ助かるー。次の夏も一緒に出な

「三人で三人で。トライアングル・ラヴ!」

「それ好きだなお前」

「押し合いへし合いはドラマの基本ですよ、むしろそ

139

れしか無いと言ってもいい」 「おう、ドラマツルギーについては俺ぁ素人だ、 聞 カン

せてもらおうじゃねーか」

「そんな大層なもんじゃないよ、

『あ、なんとかなるのかなー』

『なりませんでしたー』

『なりませんでしたー』 『あ、今度はどうにかなるのかなー』

この繰り返し」

「また大雑把だな」

「『24』とか『冬ソナ』とか全部そうだろ! あと

『めぞん一刻』」

「ちくしょう。良い物は良いんだ!」

「響子超ビッチじゃねぇかあんなヤツ」

ピュア・プリンセス・ヒロインなんだよ! 俺の響子さんに何を言う。CV島本須美ってだけで エターナ

「お前のじゃねえ。現実を見ろ!」

ルに!

「見たかねぇからアニメ観てんだろが

かし開場一〇時つーと結構あるな」

良 挨拶回り結構早く済んじゃって。もちょい遅くても かったねごめん」

「いや、いーんだけど別に。

の繰り返しのようにも思えなくもないなあ」 ……まあしかし確かに連載ものとかは押して引いて

「脚本家には二種類居て、ブロックの仕上げが巧い人 全体として興味引っ張るのが巧い人と居るね」

「ほうほうなるほど」 「あたしどっちかってーと一塊小粋にまとまってる方

が好きなんだけど、もっちゃん逆なんよ」

「ああなんか描いてるものそうだな」

「そそ。

なんかもーいいところで『次回へ続く』 が 出ると

『あ 『水戸黄門』だろ!」 !』とか喚いて裸で走り出したくなる。 男なら

って言われて二週連続物はやらんらしいな」 「あれ『お迎えが来るかもしれないから止めてくれ』

「年寄りだけじゃないよ死すべき運命にあるのは。

「はは。そうね」

ね?

方には人山ができつつある。 人ぴったり並んで座って壁の方を見ている。 壁の

143

「……あれ、なに?」

「ああ、買い物の列ー」

「まだまだ開始まで時間ある……ってか自分のサーク

ル開けていーんか」

「サークルチケット三枚あるから、 譲ってもらったり

した買い物専門客がほとんどかも_ 「ヘーつ。

客も凄いがサークルも凄いな、 あれ捌くんか」

「もちろん。酷いところだと一日中それが続く_

何冊ぐらい出るの」

「さあ……三千とか五千とか聞くけどやったこと無い

から知らん。人のこと興味もないし」

「ああなりたい?」

追 い立てられるみたいでヤだね」

「鈴木嬢は意外に理知的ですのう」

「酔っ払ってるのはマンガ描く時だけでいー

ジョセフィーヌは腕組みをした。

·····・あたし昨日寝ながら考えたんだけどさ」

る。器用だな」

昨日ポンちゃんが言ってた 『ビックリ』って、 難し

いね」

「だろう。たぶん芸術家は一生掛けて自分のビックリ

作戦を練るんだ」

「てかむしろ奇跡が起きて神様が降りてこないと無理

かも」

「……うーん……降りてくる?_

「たまーに。

『うわ、これあたし)描いたの?』

るぐらいだから人も驚かせることが、できるんじゃな てことはあるよ確かに。そんときって、自分も驚いて

いかな。

ない?
そういう時」

「・・・・・無い、わけじゃ、 ないな」

博 ション上げて、神様降りてくるのを待つわけよ。シャ ナかオトコか引っ掛けまくってね、こうとにかくテン だから芸術家はお酒飲んでね、 打で興奮してお金無くしてピンチになってね、オン ヒロポン打ってね、

ーマン」

「いや。

てきてもらうのは目的じゃない、 それは抜本的に手段と目的が入れ替わってる。 降りてきたものを表 降 り

すのが目的であって」 「降りてこないとはじまらないと思っちゃうわよそれ

「・・・・んー」

じゃ」

も最後締め切り無理してそれがたたって体調崩したみ 「もっちゃんもだんだん筆が遅くなってきてさ。今回

たいで」

「ああ・・・・・わかる」

「一発クると、またあれが来て欲しい、来ないと、

「いやでもわかるんだけど、それは、違うんだよ。な 思っちゃうよねー」

から表わせるように阻害要因を取り除く」 んていうか……もう降りてるんだ。表せないだけ。 だ

「なんとかドクトルマンボウだったっけ。

あそうその北杜夫センセがさ、それ最初のそれで言

『俺はまったく役に立たないことだけ書く』

うのんよ、

の超インテリだから、 って宣言するの。あの人お父さん茂吉で東北大医学部 『役に立つこと』書こうと思え

ばなんぼでも書けるんよ」

どんどんどんどん領域が狭くなる」 「でもそうじゃない、実は、 、そんなこと考えてると、

と、すぐ何も書けなくなる、ってことね」 「つまんないことだけ書く、と宣言するぐらいでない

たんじゃなくて、一個書いて書けちゃったり当たっち 一個しか書けなくて消えちゃう人、って才能が枯れ

「そのまわりばっかりぐるぐる回っちゃうんだよね。

やったりすると」

わかる。うんわかる。ギャグも同じ系統繰り返しちゃ

うよね」

「そそ。元口に言ってやれ。 いいもの描こうとすんな、 くだらないもの描こうぜ、

「けどもっちゃん真面目だからなー。わかってくれっ

かなー。

ク』の次が『バガボンド』ってのは凄いよねぇ」 「天下の井上雄彦が天下の吉川英治原作の天下の宮本 しかしそー考えると井上雄彦先生の『スラムダン

武蔵のマンガ描きたいって言っては断られまくって 『バスケのマンガ描いてくださいヨォ』って言われ続

う人間でなきゃ営業なんか務まらんわ」 「営業ってのは売れてるものを売りたいんよ。そうい けたこともスゲーけどな」

「自信持って薦められるじゃん『今売れてます』って。 なんで」

責任自分にないから」

怖いわ鈴木さん」

「世の中って世知辛いわよ。それが世の中」

「……さっきからなんかいつになくシリアスだな」

いや考えてるんだけどね、いやひょっとすると間違

うーん……

ってたのかな、と」

「はあ」 「しょせんポン吉の言うことだから信用しなくてもい

るんで、つーか来た、んで考えこんじゃってるわけな んで、これ非常にマズい」 ーんだけど、ポンちゃんの言うこといつもグサッと来

「……なんかマズイこと言っちゃったわけ?」

「うん。

取りを回す』てのがあって」 「はあ。すみとり?」

昔の囲炉裏端に置いてあった行平鍋みたいな道具。

あのね、 してて 柳田国男の書いた怪談話を三島由紀夫が激賞

『炭

あたしの作画・作劇技法のひとつの目標として

「ビッグネーム二つ揃いましたな」

るのこっちに。 「江戸時代で、 その時その幽霊の着物の裾が炭取りに 女の幽霊が出て、 囲炉裏端を歩いてく

引っかかって、くるくるっとその炭取りが回る。 <u>_</u> の描写一つで、その幽霊が読者の目の前に浮か

うのだ、と三島センセーが」 持ってこっちに迫ってくる、 上がる。 その世界その物語全体がぐっとリアリティを こういうものを小説とい

あるいはまた近松門左衛門師匠が」

ははあ。なるほど」

またさらにビッグネームだな」

『虚と実の皮膜のうちに芸がある』とこうおっしゃ

る。 クション、虚構と、囲炉裏端というありうる現実と、 れってつまりさっきの例でいうと幽霊というフィ

この間を繋ぐものが、 「ふむふむ」 『炭取り』」

描いて、これを回さねば、と思い続けて、きた」 「だーらあたしゃ、ずっとこの『炭取り』的なものを

が 「ほほう。鈴木のあのふわふわ四コマにそんな歴史 「ま実現できてるかどうかは極端に怪しいんだけど。

ま目標として理想として。

……けどね、昨日ポンちゃんに『ビビらせろ』って

言われてその瞬間なんかチクッとこう来て」

「ほい」

「……そこ、繋がない方がいいのかな」

「え、なんでなんで」

「ポンちゃんハゲデブチビメガネアブラ親父だとして

3

「えらい翻乗ったなこれ」

『お父さんこんなとこ来てちゃダメでしょ』 「仕事に疲れてキャバクラ行くのよ。そこで

て言われたい?」

「言われたかねーなあ!」

「でしょー。まるでこの世の王様かのごとく扱って欲

しい、よねー」

「そういう期待持って行くとこだしねえ。いや行った

こと無いんだけど」

「注釈つけなくてもポンちゃんそういうとこ行く人じ

やないって知ってる」

「そんなに実は真面目キャラにちゃんと真実が見えて

ます?」

「恥ずかしがり屋だから。

それはいいとして。 つまりそのー、『子猫ニー』の方向って要するに夢

を見る方向だからさ、虚構どっぷり浸からないとダメ で、その場合炭取りは無い方がいい」

「え、だって虚構に浸かるための小道具だろ」

示唆するようなモノは要らないじゃん」 りにわざわざ来てくれてんだって。そんな人に現実を 「違う違う、だからキャバクラ来る人は最初から浸か

クリさせて欲しいわけでしょ要は。ということは、 「で逆にー。現代美術展見に来るような人はー。ビッ

「ああ・・・・・ああ?」

158

初から現実と虚構のギャップを意識に乗せて来てるわ けで、そんな人にもわざわざギャップを示唆するなん てまどろっこしいブツは要らない」

「うぬー」

喜び方が違うんだよね、なんとなく。 ちゃんの方がずっと数多いんだよね、 少し居てとてもクールに喜んでくれるんだけど、もっ 「現実問題として、あたしのはコアなファンがほんの あそうディズニ ファンがね、で

そそそそそそ

「ああまあ騙されに行く虚構の国ですわね」

159

あと思うなあなんとなく直感で。ぱっと考えただけ ゃよくわからんのだけど、俺その三島の理屈は非常に いやでも必要無い、ってのは言い過ぎじゃないかな

よくわかるし正しい気がする」 別に間違ってるってわけじゃないんよ。

か、使わない方がいい、とか」 ただ……ひょっとすると現代日本では、 必要ないと

近 |松はともかく三島の時代とならあんま変わらんだ

「わかんなろ」

ただ、 あたし的に軸にしてた作戦がいまグラグラ揺

らいでて、なんかちょっと困惑してます」

「・・・・・それはすまんことをした」

「いやすまなくはない。

向転換した方がいいよね」 これ間違ってたり意味が無かったりしてたら早く方

「うん、間違ってはないのよね、たぶん。

「しつこいようだが間違ってはないと思う」

けど効果的かどうかとか、現実的かどうかとか、は、

また別問題」

「そうなんだけど。 なんか悪い気がしてきた

161

「なんよ昨日は自信満々に傲然と言い放ってたくせに

_

「人の人生左右するかと思うとビビるじゃんか」

「別に人生の問題じゃねッスよ」

「これで鈴木が目覚めてマンガ家への道を突き進んだ

ら俺の一言が」

だろ、それはキッカケであって、そうなるようになっ 「無い無い。つーか、そうなったら、それは……なん

てた、ってことで」

「まあそうなんだけど」

「うーん……びっくりさせる、びっくりさせる……う

「ヒントになるかどうかわからんけど、 その安冨先生

が言うには、マイケル・ジャクソンは」

「パオ!」

「圧倒的なダンス・歌・曲でみんなをボーッと酔いし

れさせて、 詞はかなりストレートに問題を抉る」

「『Smooth Criminal』って曲は聞いたことあると思

「ポウ?」

うけど」

「あとでTube開いて聴け。 絶対聞いたことあつから。

「えー・・・・・どうかな」

『アニー、大丈夫?』って繰り返すばっかりなんだ」 は最高にカッコイイ曲なんだけど、 詞の内容は

人形のことで、つまり我々はスムーズ・クリミナル、 「アニーてのがアメリカで救急手当の訓練に使われる 「なんじゃそりゃ」

世界を滑らか動かそうとする力によってまるで人形の ように感覚のない日々を送ってしまっている、だから

『大丈夫ですか!』と」 「ヘーやたら奥深い」

たちが体四五度前に倒すダンスみんなで真似してね。 んなもんが世界中で超ヒットするわけさ。子ども

な『人間味を取り戻せ』なんてお説教、

から聞いて楽しめるわけないはず、じゃん。 でも人間どこか圧倒的だとそれに目を奪われて別の

どこかが意識から落ちるんだよ。

マジックのネタと同じで。

でもよくなって、しかし聞いてるわけだから、 MJのイケてる踊り観てると何言ってるかとかどう 無意識

「すげえなあそれ。には刷り込まれていく」

けどウチにはぜってーできねー」

まキングだからなあ。キング・オブ・ポップ

「俺たちは仮面を被るわけさ、人とコミュニケーショ

「ワールドクラスならではだねえ。

うーん……

ンを取るとき」 「いま鈴木だって俺用のを被ってくれてるんだろうし 「被るね」

魔をする」 俺も鈴木用のを被ってる。これでコミュニケーション がスムーズに行われるわけだけど、この仮面が時に邪

166

よね」

「やり過ぎると仮面なのか自分なのかわかんなくなる

「そうそう。古来よく芸術のモティーフにされるけど

な。特に文学」

「マンガでもよくやるよ」

当に自動処理して、『本当の自分』に良くも悪くも届 「だから真正面からテーマぶつけると、この仮面が適

「良くも、ってのは?」

かないんだよ」

「ソマリアの子たちが飢えてるとかいつも気にしたく

ないだろ……正常性バイアス」

なるほろ」

「だからこの仮面を突破する作戦、これを考えださね

ばならない、われわれは。 それぞれのやり方で、それぞれのテーマや個性に合

ったものを」 「子猫に地球温暖化でも訴えさせるか」

いう作戦で来てるってことがバレてはいけない」 まあ戯画化して言えばそういうこった。ただしそう

あ、そこで昨日ダメだっつってたのが、『それっぽ

「そおねえ。

うなフリをしてて、受け手もなんか受け取ったような い』っていう」 「そうそうそう。実は何も言ってないのに言ってるよ

フリをする、これが非常にマズイよな」 「マズイねえ。コミュニケーション自体の信頼を損な

うねえー 「空箱ばっかり開けさせられてたら、箱出してもまた

「ひどい場合にはちゃんとびっくり箱だったのに、

空箱かと思われるし」

『びっくりさせやがって』とか怒られたりして」

て説教されりゃそりゃ怒るわな誰だって」 「キャバクラ行って『そんなにお酒飲んじゃダメ』っ

「だからなんでも底抜けに戯画化するのも問題なんだ 「そういう『説教キャバクラ』とかありそう」

「そういう陰謀がありゃまだマシなんだよそいつ倒せ 「わかんないようにしてる勢力があるんじゃないの? なにがホントなのかわかんなくなるから_ 170

ロスチャイルドとか」

から、 違うんだ全員が全員で『本当のこと』を見たくない 『本当のこと』を言う人を黙殺して罵倒して排

除するんだ。

ばいいから。

って。

い盲点突かれりゃ発狂して喚き散らすと思う」 「ポンちゃんどこまでもクールだからんなことないと 俺だって偉そうなこと言ってるけど自分に都合の悪

思うけどな。

まあたしも普段から喚き散らしてるから多少のこと

では喚き散らしませんよ」

いいと思ってるやつほど頭悪い」 鈴木みたいな奴の方が本質掴んでんだよ。 自分が

「だよねー。

頭 いや待てあたし頭悪いって言ってる?」 いいって言ってるの。

ほ んの一欠片で、それで上下あるとかないとか意味な 宇宙ってのは知らないことだらけなんだから、 知ってることなんざ○・○○○……%の、 とにかく 俺

い話で」

「そうだよねえ。

ら目線なんて使ったら人の印象激悪になるじゃん。そ 頭いい人ってだいたい上から目線なんだけど、上

んなこともわかんない人って、バカだよね」

「そそそそそそういうこと。

『あの人は要領がいい』って人に言われるのは、

に要領が悪い」

「まあ、それはいいんだけど。「いい評価じゃないもんね」

さてどうしたもんかねえ……

「司馬遼太郎先生がさ」

「またビッグ・リョーが。

ちょっとなんでそんな文学偉人のことよく知ってん

「あたし文学少女なのよこー見えても」

「あなんかそーいや本いっぱい持ってんないつでも!

あれ全部マンガかと思ってた!」

「だいたいマンガ。でもいや、えとねあたしどうも

『本』が好きなの」

「うん、Kindleとかもだいぶ買ったんだけど、ピンと 「そうなんか」

便利だとは思うけど、 同じ本だったら本買

からんでもないなあ。

ま あ絵は現物とレプリカの間に歴然と差があるんで、

同 「いやそれで司馬センセが、しょっちゅう言うのは、 列には語れんけど」

って言うの。何言ってるのかなー、って思ってたんだ 『作者のアルコール分は3%とか5%とかでいい』 意訳すると

けど、センセのは歴史小説だから裏付けの無い妄想は ほどほどにしときなさいよ、という意味かなと思って

174

たんだけど」

「ああ、だからそれってつまり今言ってる言い方なら

『司馬戦術』で」

ことかな」 とこっそり、自分の『イイタイコト』混ぜてる、って 歴史的な事実をブワーッと並べてその中にちょびっ

「かもしれん・・・・・」

「ふふっ。なんかそれってでも子猫の山の中にグレム

リン混ぜとくようなもんだね」

「まあなあ」

「そんなウソつかなきゃなんないもんかに」

「嘘じゃないさ。

だれもグレムリン入ってませんとも言ってないし、

猫山とも言ってない」

「いやでもフツーそー思うじゃん」

「それは思う方が悪い。へヘッ」

「いやまーそーだけどー。そーだけ・どー」

する者が居て伝えたいものがある以上、まちがいなく 真面目な話、 芸術だってエンタメだって伝えようと

同士』っていう形は頭の片隅にでも置いといて」 コミュニケーションなんだから、この『仮面被った者

「そこで無理矢理にでも突破するか……あるいは仮面

. 投げ渡してあとはあなたのご自由に、と言うか…

. .

よな、言うなれば。間違ってないし悪くもないけど」 「まあ正面から『正義は勝つ!』みたいなのはそれだ

ああ、だから子ども向けってそういうの多いよね」 「効果は薄い。仮面の未発達な子どもならあるいは。 「子ども向けはむしろそれがいいんだ。 羨ましいな」

「戻りたいよ純真なあの頃に」

「戻りたいねぇ」

「あれポンちゃんでもそう思うん?」

俺色がダメなんよ。きっと子どもの頃なんか良くな

経験して色センスを大いに毀損した。その前に戻り

「えーそんなことってあるかなー」

常に煌々と蛍光灯のまっちろな灯り点けて点けて点け 年経って二世代回ってもまだ怖い、暗闇が」 倒すのは、 て家も人間も焼かれまくったトラウマだと思う。怖い 「トラウマって超バカにできんぞ。俺は日本人が夜異 だよ暗闇が。だから死ぬほど明るくする。戦後七〇 灯火管制の中B2 に焼夷弾落とされまくつ

照大御神だって喜んでんじゃない?」

「んー……日本人白大好きだからね。

白い光見れて天

つ 178

まあそれもあるかな。

ああ色センスさえあれば」

色はあれ外しちゃダメよお。持って生まれたセンスあ 「ポンちゃんさあ、いつも外そうとするつしょ。 あ

る人以外わー」

「いやだからー」

「そりゃなんでもかんでもは持って生まれませんよー。

なんか香水の本で読んだ話なんだけどね」

「おう」

ってまあ香水の調合とか評価とかそういう仕事の人な 「ネ、その名も『鼻』っていう職業がフランスにはあ

179

んだけど、これは基本的に嗅覚の天性が必要らしく

「なんか大変そう」

「何十人に一人しかそもそも持ってないらしいよその

センス」

「あたしも自分描くからよく色は観てるつもりだけど、

 $\begin{bmatrix} \\ \\ \end{bmatrix}$

色センスも同じぐらいかへ夕したらもっと居ないんじ

人いっぱいいるよ?」 やないかなあ? デザイナーとかって人種でも怪しい 「でもそういう場合にはカラーリストとかも付くんじ

やないの?」

感性分野の資格なんかアテになるわけないじゃん。

知ってるくせに」

「まーねー」

「クルマとかでもびっくりするようなダッサイ色のク

ルマあるもんねぇ」 「いや・・クルマは擁護させてくれ、 あれは売れる色

とかあんのよ、そのクルマや形に合う合わないとか、

色そのものの魅力とか関係なく」

「例えば?」

「パンツみたいな黄ばんだ白あるだろ。 あれパールホ

どんなクルマにもほぼ設定される」 ワイトっつってほとんどの車種で一 番人気になるんで

「あー! あるある! あれキョーレツにダッサイよ

ね!

売れるから。 売れるは正義。 売れるから」

「五七で来たよこの人は」

「まアレも絹かなんかをイメージしてんだと思うんだ

けどね」

「クルマって鉄でしょ? の国の人はそういう欺瞞にはなぜかとことん無頓 絹じゃないじゃん!」

なんだって。昔ハンドルあるだろハンドル。あれで

ウレタンのハンドルに革巻いてるみたいなステッチ入

「うえええええ」れてたハンドルがあって」

「触った瞬間『ヒィイイ!』って悲鳴あげて仰け反っ

「おそろしい……おそろしいわ……」

たさ」

ることの範囲内で質感を向上させるのはいいと思うん 「ウレタンはウレタンなんで、もちろんウレタンであ

だけど、 革の真似をするっていうのはそれは『嘘』な

んだよ。

それって『わたし嘘つきますよ』ってメーカーの宣

言なんで、ハンドルだからいいとかってことじゃなく たもんじゃねーだろ? かねんって宣言じゃねーか。そんな危ないクルマ乗 いられるなあ、って心底意味わかんない」 って、それエンジンとか安全装備とかで同じことやり よくこんな欺瞞や嘘に平気で

てるからね」 「まヤな言い方あえてすると、普段から欺瞞にまみれ

「ああヤだヤだ」

「ヤだねぇ。

要かもしんない」 ……んでも嘘も欺瞞も仮面を突破するためには、必

ああダークサイドに堕ちそうだわ。

ルーク大きくなったな」

「アナキンを非行防止ボスターに使ったのってあれ

対ネタだよね」

「決まってるじゃねーか警察屋さんだからってユーモ

アが無いわけでも無かろうし」

「に 俺 してもエピソード123つまんねーよな!」 1観て切ったから23の評価はできん」

あんた一番キツイんだよいつでも。どこで切った?

あ たなルーカス」 たしあののベーとしたCG大会戦シーン超ダメ。老

ではないけどこんな安っぽいとこで使うなよって。必 はポッドレースかなあ。セルフオマージュは無し

然性も無いし」

だけ。 らあのキャラが良くないんだって思い込もうとしてる 「そうそう。映画自体クソだってこと認めたくないか 「ジャージャーにキレてる人って転位行動だよね」 あんなキャラなんぼでも居るもん。

まあしかし擁護するなら全部後付けだからな。 難

いよそりゃ。『メイトリックス』の23に比べりゃマ 「でも目の前に数百億転がり込んでくるのが確実な誘 我慢しろ」

惑があれば転ぶよフツー。それは。うん。転びたい」 ら、『ブレラン』の地位を奪えたと思うんだ」 「うん。俺も我慢する自信ない。でもあれ我慢してた

「えー? そーかなー?」 「あれは過大評価されてると思うなあ。パロディと

るがないだけでー」 で拡大再生産され続けてるから原典としての地位が揺 「いやいやいやいやいや、言うても『意識とはなんぞ

羊の夢を見るか』は名作中の名作です。『MATRIX』 ごときとは格が違いますよ格が」 や』は人類のテーマですって。『アンドロイドは電気

「いや。 あれ降ってきた系かな」 じじゃんテーマ」 いや、 あれはもうモロにオタクが今ま 覾

当たっちゃって泣きながら二作目三作目でカッコつけ きた作品の美味しいとこ集めたパロ映画作ってみたら も次『スピードレーサー』作ったのは自分のことが て案の定化けの皮剥がれましたって作品じゃん か。

わかってて偉いと思った」 メリカのショービズ界は恐ろしいから。たぶん2 よ

作らなきゃ殺すとかそんな世界だよ」

「あながちそんなバカなとも言えんな」

「アングロサクソンは怖いよ、アングロサクソンは怖

\ _

原爆落として月行く奴らだからな。 気が狂ってると

しか思えない」

「まどこの民族も気が狂ってるとこあっけどねえ。ス

ケールおかしいよねえ。

やっぱ発狂しないと神様降ってこないのかな」

「神様って難儀なヤツだな」

「いるさっ 最初に罪を考えだしたつまらん男ですからね」 ここに一人な!!」

「アニメめっちゃ観てんじゃん

いったか」 「ネットで流れてる断片で知ったかしてるだけだ。 ま

「いばんな」

ピーンポーンパーンポーン…… ただいまより、コミック……

俺も真似た。立ち上がってサムアップするジョセフィ 拍手が起こった。姫も大きな音立てて手を叩くので

リヌ。

「さあ始まるぜ、気合いれていこう!_

おう」

いや気合入ってんなー、なんてのんきに思えていた

のは数分だった。 その後はもう。

『ローズ&リリィ』と鈴木の人気を確認して目が回っ

る感じ。そこに写真いいですかとかサインくださいと 部数三○○と聞いたけど始終お客とやりとりして

か……サイン! 俺も求められたけどやんわり断った。

と、お昼過ぎにはほぼハケて……と、唐突にパシャ

ッとフラッシュが光った。カメラの主 は。

「・・・・・もっちゃん!」

ねゴホ」 「だいじょおぶだいじょおゴホ、 「元口さん……風邪大丈夫? マスクまでして」 本田君ごめゴホゴホ

「ぜんぜん大丈夫じゃないな」

「とりあえずブース入ってきなって。 座れ座れ

俺が立って席を譲った。

たぶん来るんだろうなと思ったらやっぱ!」 :まったくも一昨日からメールも電話も無いか

「でへへゴホ、ううんどうしても本田君に会場で謝っ

とこうって」

いじょうぶ全部売れたから」 「嘘つけ、新刊の売れ行きが気になっただけだろ。だ

「反応どう?」

んな買ってったから、心配すんな」 「まだわかるかんなもん。とりあえず中身見た人はみ

でさせて。すっごく似合ってる」 「心配はしてないけど……本田君ごめんねコスプレ

「ランちゃんともお似合い。怪我の功名だね」 ーそお? ありがと」

「ったく。半ズボン履きたくなかったらそう言えば

「ううん履きたかったよ。白いタイツ履きたかった」

いのに」

「元口さんマンガ巧いね」

「ふふふ。ありがとう。でも最近自信無くしてて・・・・・

って聞いた?」

「いや。いまペラペラめくって巧いな、って」 「へへへ。美術部の人に褒められると嬉しいな」

「ポンちゃんちょっと回っといでよ。せっかくだし。

あたしともっちゃんここ居るから_

「そう? じゃ・・・・・

元口来てから鈴木ずっと怖い顔。 ありゃお説教だな。

作風からして元口が引っ張るタイプなのかなと思いき

や、やっぱ鈴木がリーダー格か。

……よしせっかくだから噂の「男性向け」ゾーンを

195

こだけ違うんですけど霞んでて! に雲沸いてますよ積乱雲みたいなのが! ……うおっ、あそこか! ちょつ、この寒空に上空 もちろん人口密度 視界があそ

も多い!

ちゃーらーらー ちゃららーらら らららーらー

れ た瞬間変わった。 RPGの軽快なBGMが、そのゾーンに足を踏み入

べろべろべろべろべろべろべろべっべっ

物 肌色、 一歩ごとに体力が削られる毒の 肌色、ピンク色、 肌色、 沼。 肌色、ちょっと黒、 目に入る物入る

肌色、ピンク色・・・・

あー!

同 は 毒 誌 地獄の一丁目、死神と堕天使が微笑む の盾とアイテムの鞄を装備して はいつ果てるとも無く広がり、 数) 街。 の勇者達が 往するこ

ラも知らん! に人気あるお誕生席ブースを覗いてみた。 かしふらふら歩いてるだけでもなんなので、 作品もキャ

「どうぞどうぞ~」「見ていいですか?」

おー・・・・うひ。 うわあ……おお、 おお? うおー、 おお、 おお、 お

ぼくにはしげきがつよすぎますー

「あの、お客さん、それ『俺おじょ』の執事さんのコ 「すびませんありがとうございばしだ」

「あ、はい、ちょっと友だちにやれって言われて」

スプレですよね!」

忘れてた・・・・ ぱずかちー

「僕マーヴェリック大好きなんですよ! 一緒に写真

とかってお願いしても迷惑じゃないでしょうか!」 「あ、いや、えー、はい、だいじょうぶです」

「やった! 福田さんこれ写真お願いできる? でき

る?」

ぱしゃつ、ぱしゃつ、ぱしゃつ、ぱしゃつ・・・・・

うう……道行く人の視線がー。

ら持ってってください!」 「ありがとうございました! あの、これ、良かった

がとう……ございます」 「え! いいんですか……はい、 いただきます、あり

買ったエロ本学生服の下に隠す中学生みたいな……い やほとんどそうなんだけど・・・・・ の過激な表紙どうしよおこれ……なんかホントに

帰った。飲み物はなんかいっぱい差し入れ貰った。 ほうほうのていで焼きそばを三つ買って、ブースに

「帰した。ったくもー、 「元口さん帰った?」 肺炎にでもなったらどうする

つもりなんだよ!」 「まあまあ。 悪気あってやったことじゃなし」

ンちゃんに頼んでさ、衣装も借りてさ、あたしのミス でポンちゃんロビーで寝させてさ、ぜんっぶ無駄じゃ 「あるよ。だってもっちゃん家にいさせるために、

でもないから」

「いやいや、まあまあ、来たくなる気持ちもわからん

思ってたのに、そんなこともわからんのかってそれが 労力つーかも無駄でしょ? よくわかってる仲間だと 「あたし無駄なのはいーけどポンちゃんの努力つーか

「無駄じゃないって。

楽しかったから。元口さんにお礼いいたいぐらいで」 俺今回呼んでもらっていろいろ経験できてめっちゃ

「いいよそんな甘やかさなくっても!」 「ほい焼きそば食って機嫌直せ。ジョセフィーヌは可

憐なお嬢様なんだろ」

「足りなかったらホレ、エロ本」

「・・・・うわお。

これこの作品子どもの頃よく観てた。あの作品にこ

なん!!」 んな……ハードだなこれ!! ポンちゃんこんなん好き

いや目についたの適当に立ち読みしてたら写真い

ですかってお礼にくれた」 「あたしのマーヴェリックはこんなの読まないの

「むしろ助かる。 _ れは没収です」 家に持って帰れんわこんなん。ママ

ンに見つかったら泣かれる」

「泣かれる系まだいいよ。家族会議系とか」 「ああなんか『うわぁ』てのいっぱいあった」

「そんな勇者には3ホールのこのへんから2ホールの

「いったい何が」このへんまでもオススメ」

我々B L星人の中でも特に濃ゆい大局の大お姉さま

方が」 「かなり発酵がお進みになったような」

もう液体になっておられますね。純度があがって透

明なアルコールのような。サークルさん方はまだよろ の小僧だとしたら空海・最澄のレヴェル」 いのですが、お客様方がこれがもう。あたしが門前

解解 脱

ああ・・・・・遠慮しときます」

生き仏」

「人生なんでも経験ですよ」

「あたしのマーヴェリックは挑戦心を忘れない人 「しなくていい経験もあると思う_

よ!

「しなくていい挑戦もあると思う」

った。 「まだ早いけど今回は帰っちゃうか」 ……とか言ってるうちに全部はけて、 撤収とあいな

何時までだっけ。 四 時 ? そりや暇だな、 帰るか」

お茶してゆっくりしよー。

奢るー」

「いいっていいって。見たっしょ売上げ」 「いいよ最後は俺が奢る」

「イエース。これみんなには内緒よ」 「ああ……そか、三〇万だもんな」

るしそんないい服持ってくるし金あんなーと思ってた らちゃんと自分で稼いでたんだなー。えらいなー」

「そっかー。なんか宿とか飯とかバンバン奢ってくれ

「ほほほほほもっと褒めて。 「楽しいねえ。 お金稼ぐの、楽しいわよ?」 じゃパへでも奢ってもらうか」

「いーとこあんの。

誰連れてっても文句出ない素敵ス

207

イーツ。いつも二人で帰りに寄るんだけど。 案内す

る」

「おう。

……てか着替えどーすんだこれ」

「その店入ってるビルの三階に広い多目的トイレある

から」

「そこまではー?」

「タク乗ろタク」

「うえーい」

タクシーの運ちゃんは……慣れてるか。今日ここで

客待ちするようなプロは。 さらば国際展示場、またいずれ……

三年ぐらいあとでいいかな。

「……で、なんでこの服着たままなんだ」

「いや……ここだって誰も『こういう人達です』って 「いーじゃん最後だしー。執事付きはー」

*

理解してる人居ないからみろ周りからチラチラ……」 「だから『こういう人達だ』ってわからしめるわけ

j

ホットミルクティーとブレンドコーヒーになります」 ェとバナナヨーグルトパフェ、特製あんぱんお二つ、 「お待たせしました~。プリン・ア・ラ・モードパフ

合う、と」 「これこれ。これをこうスプーンクロスして食べさせ

「あども」

「こう……てできるか!!」

「これで写真撮ってたらどう見ても『俺おじょ』のコ

・撮影でしょうがー」

「あ。 いや、えー?

本物のバカが二人嬉しがってるように見えない

?

すがにあたし達の視界には入らない世界に生きてると 「こんな服来て街闊歩してパへ食べるほどのバカはさ

思う」

「リッツとかに居るのかな」

居るよほんで偽装食品食わされてんの。ヒヒヒざま

あみさらせ」 私達のホテルでは従業員ひとりひとりに二千ドルの

211

決済権があります!」

「でもジュースは紙パックデース。学園祭の模擬店ご

「金持ちがミスした所叩くの楽しいな!」 「ミスじゃない、ウソだよ。だから叩くんじゃん」

「さ、はい、あーん」 「おっさる通り」

「うええ……はい、えー、あ、あー」

カシュイン

「もいちまい」

「角度変えて」

カシュイン

てもいいと思うんだけど、 笑顔チェック……あこの戸惑いの表情大好評でとつ 満面の笑顔も一枚欲しいな

はいもう1ショット」

るまいし」 満面の笑顔なんて簡単にできるかよタレントじゃあ

「リッツ叩いてる時の湧き上がるドス黒い悦びを思い

出して!」

「いいかんじ。 「……自分の人間性がイヤだー……」 いい泣き笑いが撮れた_

「それが目的かよ。 なんでそんな不必要に策士なん

「すいませーん、 写真おねがいできますかー?」

だ

「うおい!」

食べさせあいっこなのに…… 店員さんめっちゃ笑顔で対応してくれた……

「はいそうです! 「・・・・・あの、これ、 私たち大好きで!」 『俺おじょ』ですよね!」

「たち」

214

わーすーごいよく雰囲気出てますー。 特に彼氏さん

「一ヴェリックそっくり!!」

「あは、いや、ども」

「あっ、いいんですか? じゃあとで私物のケータイ 「でしょお? 店員さんもいかがです写真一枚」

持ってきます!!」

「……人気あんだなこの作品」

「ポンちゃんのマヴが人気あんの」

いなとか勘違いしかけてたんだから」 「止めてくれもう。会場で注目浴びるのちょっと楽し

「いやいやいや。いやいやいや。でもコスプレがんば 「イエス! そのまま突っ走ろう・ゼ!」

る人達の気持ちもちょこーっとだけわかった」 「演劇とかね。普段の自分とは違う自分」

「ま確かに解放感あるよな……

きりゃそれでいーのかな、って一周回って元通り」

まあ、小難しいこと考えずに、なんか虚構に没入で

「いややっぱりそれは基本だと思うよ。 そのソースちょっとちょうだい」

「ほい」

「……食べさせませんよ。 撮影はもう終わったのだか

「周囲の期待に応えろ男だろ」

「さっきの店員さんの期待じゃねーか・・・・・って、めっ

ちゃ嬉しそうな顔でこっちガン見してる……」

「でしょお?
も大興奮ですよ今日眠れない」

「ファン心理ってのはよくわからん……

「はい、あー」

ん! ひけふ!」

「わ垂らすなおい、こらもー……ちょっと動くなよ拭

くから」

「嘘つけただ零しただけだろお。 「ほうゆうひーんもね、本編っぽくれ」 ったく

「あいがと。店員さん大興奮」

「殺す気か」
「長いかと」
店員

んぱん。ここの美味しいんだよー! はい、あー」

「……ま堂々巡りになっちゃうんだけどさー。

「あー

ぜんぜん違う。なんだろ? ……ん。……あこれいいな。フツーに売ってるのと 餡があっさりで皮が旨

ほいあ

「そそ。 酒種効いてるパンの酸味が餡の甘さ引き立て

てるよね」

ぱんなのかなと思ったら」 「いやちょうどいーんだ餡の甘さも。へーなんであん

「そう! このあんぱんのようでなければならないの

ですよ!」

「 ん ?

「テーマが餡で、それを美味しいパンで包みこむと、

おとどけしやすいのです」

「なるほどね。餡ばっかりじゃ胸焼けするわな」 「パンがあると餡も引き立つしね」

とかもう中身わかってるもの演じるわけだもんなあ」 か関係ないよな。むしろ素材で。クラシックとか落語 「それが技術って意味じゃないかなと思うんだけど」 「しかしパンも旨くないといかん」 「あー・・・・・そうだな、 餡の所って実はあんまり技巧と

ようが無いんだよ。 「そうそう。でも美味しいよねー。餡はあんまり変え まなんでもあんぱんに見立てることもないけど」

「パン、っていうのが難しいんだよな、奥が深くて」 「でも実はそれ泥沼で、パン極めなくてもあんぱんと

しては極まることもある」

体となって……まあバランスとか総合力とか言い出す と何も言ってないのと同じなんだけどなあ」 「コンビネーションというか餡に合ったパンが

「ポンちゃんの絵は餡だけ皿に 「おまーのマンガはパンだけ焼いて中空洞なんだ」 生盛りなんだ ょ

「「失敬な!!」」

「えつ、てことは・・・・・組まな 俺が原作でてめーが絵か」 γ)

「ペンネームは本田ラン」

「足塚茂道」「そのままじゃね」

とでかいやらかしやっちまうから」 ッグになればいいんだよ! ヤマトヨセンセみたい 「パクリがバレても周りみんな守ってくれるぐらいビ 「だからその臆面なくパクってくるなって。 癖になる

「誰だそれ。そしてなんというチキンレース」

に!

ばたくんだ、って」 かり描いてる青春だけど、だからこそ想像力の翼が羽 「F先生が言ってたんだけどね、四畳半でマンガばっ

「む。まあ、それはそうかもしれん。

でもなんで」

思わなくてもいーんだよね」 んだけど、そんなに、気負って、いい餡入れようとか あたし餡入ってないのちょいコンプレックスだった

「ああ、そゆこと?

からウチらもっと無くてもいーだろ」 そうかもしれんね。司馬遼太郎が3%っつってんだ

なら一五分で済む」 ナ』なんかあれ有閑マダムの浮気の話よ? 昼ワイド んにしろよってぐらい長いもん。『アンナ・カレーニ 「ドストエフスキーとかトルストイとかもういいかげ

「いやまあ、薄めるために長くしてるわけでもないだ

ろうけど……て『竜馬がゆく』も長いよなあ」

「薄めてんだよあれ! それ悪いことじゃなくて、 必要なことなの!」

「そういや世阿弥センセも『秘すれば、花』って言

観たくなる! そうそれはエロス!」 「隠してんだ。 隠さなくてもいいものでも隠されると

に微妙にワクワクさんが来ねーなーと思ったらなんで 「そうだよさっきの同人誌もなんか超エロいはずなの

というものは!」 もかんでもオープンにしすぎなんだよいいですかエロ

もかも全部放り出してオウイエスカモンバッチコイ言 ホイキタ!」 例えばスズ……いやダイナマイト女優さんがもう何

「言うよりも!」

うよりも!」

をこうコネコネコネコネ服に押し込もうとするこの! 普段着ない胸ぐりの空いた服着てブラ紐がチラ紐でぼ くが恥ずかしながら勇気を振り絞ってそれを指摘する と顔を真っ赤にして『えっ、えっ』とか言いながら紐 「元口さんみたいな清楚な女の子がお祭りだってんで

「すんでのところでそりゃ悪いと回避して後段テンシ の例にあたし出そうとしたよね」

ら協力しろよ。つまり鈴木の蹲踞より元口のチラ紐っ ョン上げることで無かったことにしようとしてんだか

って捉えていいのかな」 「力士扱いって国技戦士ってことで褒めてもらってる

てことだ」

スとして最ッ高の褒め言葉だ」 「確認するまでもねーだろアスリートいやアスリーテ

喉

227

年三試合ならともかく九○試合もすんだから。何をム チャ言ってんのか」 ねーじゃねーかガチでやったらケガすんだから。 格闘技なんかアングル書かなきゃ興業としてなりた 百長するぞ!」

塞翁が馬』だなって思った」 肉屋の名前が『やみつき』って聞いた時に『人間万事 「でもあたし琴光喜があれで辞めさせられて開いた焼

「うむ。 何何 めるとか隠すとか の話してたっけ」 世界はそんなふうにできている」

「だからあたしー、昔からミニマルな方が絶対いいと

思ってて、iPhoneのデザインみたいに」

「そりゃそうだろ」 「でもみんなあれにカバー掛けるんだよカバー。スト

たらふなっしー! もねー、超デコレート。口ではこれオサレですね素敵 ですね言ってキティとかバーぶら下げて酷いのになっ ラップ付けるんだよストラップ。ミニマルでもなんで キモッ! スティーブ泣くぞ草葉

「定期的にキモいキャラ流行るよな。あれなんなんか

な」

の陰で!!」

端 ら んたアップルストアで生活したくないっしょ にある生活してたらキモいもんなんか要らん に決まって 活から汚い物全部隠して清潔ピカピカに るじゃん。 天然痘で野垂れ死んだ死体道 ? してる か

「IKEA凄いよ適当に散らばらせてダサくし 『あ

「無いねえ」

こういう部屋いいな』と思わせる。それはいいんだけ

だけどあれって」 で見てて『よくそんな嘘描けんなー』とか思ってたん \mathcal{E} っちゃんがなんか嘘くさい愛憎ドラマ描くの横

229

「そしてライバルだよ。「親友じゃないのか」

まあこうちっちゃい種みたいなのあって、だいじに

育ててんだよね、もっちゃん的には」

ことなんて古今東西大差無いからな。といえばそう、 「ああそういう意味な。そうだろうね。人間の感じる

この話をせねばならんだろう本当に頭いい人って世の

中居てさ」

「誰々?」

「だれ? それ?_{_}「小林秀雄」

また と思ったらそうじゃなくて、この人が言った、とこ なんか難しいこと難しいように言ってるだけの人か 頭のいい人である吉本隆明が」

だ れ? それ?」

けど」 が まとにかく頭い一人らなんだよ。 ないぐらいには。俺『赤穂浪士』が大ッ嫌いなんだ 自分の頭脳に自

「嫌いそうだよねポンちゃんあの話 ね

うぐらいだったんだけど」 て一二月上旬になるたびに日本人に生まれたことを呪 「なんであんなテロ行為で喜んでんだ気は確かか、っ

231

「それは気に病みすぎ」

破してて」 秀雄が『あれは誰の心にもある復讐心の物語』と喝

「ああなるほど、てか普通に観てればそうじゃん」

「えー? あれ見て復讐譚だと思えるー?」

しててそこの店長が、イケズな本社から来たスーパー 「だってあたしがフランチャイズのコンビニでバイト

バイザーに虐められてブチ切れて暴行して警察に捕ま ってお店お取り潰しになってバイトクビになったら、

あたし店長じゃなくてそいつ恨む」

「その回路がつーと繋がるところが女の人って現実的

だと思う。

まともかくそう言われてやっとこさっとこ『あー』

というか俺に、合ってないんだよ。餡は、そう言われ と腑に落ちたんだけど、これってつまりパンが現代に、

「ああ、そゆこと。

ると、美味しいんだけど」

カス当たってると俺だって普通に観れたのに、と」 つまり復讐譚のところにもうちょいくっきりフォー

「そうそう。

ってないのね。流行り廃りとかもあって。でも餡の美 でたぶん、中世とか古代とかの作品って、パンが合

味しさっては、人間である以上あんまり変わってなく わえる人と、分離できないかしにくい俺みたいなのと て、だから残る。ところが人間には、そこ分離して味

二通りあって」 「あーそれあるかもしんないねー。

あたしわりと得意かなー」

抽出するのが巧いんだろ。というかそういう資質ある 「マンガ描いてるぐらいだから抽象化してポイントを

からマンガ描いてるっつーか」

「ああ……ポンちゃんもっと渾然一体だもんねえ」 「そう。だからそのへんもうちょっと考えていただけ

てる人には」 ると嬉しいな、 古典とか、あるいは外国の翻訳とかし

「あでもねマンガもね、 最近さすがに減ったみたいだ

ぱいいてね」 けど昔は『マンガだから』ってだけで拒絶する人いっ て時点で耐えられないんだろ。差別的言説は後付けだ。 「だから俺のもっと酷い人で現象が抽象化されてるっ だいたい人間、感じてること言語化する能力なんて

無いんで」 「そこが問題だよね」 「いや、だからこそ我々が絵にしたりマンガにした

235

「音楽にしたり演劇にしたり彫刻にしたり」

「そうそうそう。

築しよう、 内なる神秘を言語化しよう、 、なんて試みをこころみること自体がおこが 構造として完璧に再構

ましい。冒涜だ。

その場その場で、 感じたことを、それぞれの手段で、

書き留める他ない」

「四コマ一応起承転結あるんだけどさ」

「ああ」

「最近、でもないけど、 それ崩れてきてて、たぶん最

先 初 生じゃないかと思うんだけど、まそれ は、 もう萌え四コマなんか全然組み立てなん でもちゃんと人気あるし、 کے いうかそれがクローズアップされ あたし読んでも楽し は ζ ý た か無 のは ーんだ 戦

導かれてるだけで、 てるわけじゃないんで」 「まあ全てのセオリーってのは現実から抽象化され そのセオリーに従って現実が動

「そこもよく間違うよねー、人 間ね

奴 理 とか始末に負えないよ。科学の歴史なんてセオリー 系の研究者になりそこねてルサンチマン溜めてる

す』とか言ってこいつバカかと真剣に心配する。 ーそんなバカだからポスト無かったんだよ、 ついて『いやここはこうだからこうです科学的事実 の書き換えの歴史なのに、今現在のセオリーにしが コミ入れてくんなかったのその歳まで?」 誰 かツッ お め

「入ったけど聞いてなかったんだよ。 運命だね」

「まあなあ。

聞く耳、 だいじだよな」

聞 「うん。あたし自分へ夕だってわかってる いてるつもりだけど、もっちゃんとか超聞か が ら比較な ない

5

「ポンちゃんから言ってよ。なんかコピー誌の絵めっ 「ああ聞きそうにないなあ」

ちゃ喜んでたよ。目キラキラしてた」

「ホント?」

練積んだああいう『ちゃんとした絵』が彼女の憧れな 「だからあーたのデッサンとかそこそこ決まってる修

のよ

「だったら今から練習すりゃいーじゃん。 まだ若いん

だし」

「今のフォーム崩れるの怖いじゃん」

「いっ、今の、って、たかだか、いやそういうと悪い

けど、同人誌で、三……」

やぴきゃぴ言われるっていうのは」 よ。高校生にとって年間数十万入ってきてファンにき 「いや、その程度のマイクロ成功でも成功は成功なの

「いや、それはそうだ、け、ど……いやあ」

「現実的すぎるとこういう落とし穴あるよね」

「まあ元口が壁突き破るお手伝いできるならいつでも

しますけどもね……」 「もっちゃんの壁突き破っちゃダメよ」

「下ネタ禁止!!

「知ってる知ってる。だって美人だし控え目だし黒髪 あでも元口すごい人気あって」

サラッサラだしあんたら好きでしょああいう生き物」

強さ』みたいなとこがきっと魅力何割か増しなのかな、 「それもだけど、いまこうしてみると『秘めたる芯の

「あたしも増してる?」

と思う」

「あんたさっき言ったみたく表に出し過ぎてるからな

あ。まあでも鈴木の魅力再確認したよ」 「えっ? なに? なんと今?」

「いやあなんか、あの場でくるくる走り回って元口叱

り飛ばしてる鈴木は迫力があった。 て感じ。あそりゃ漫研で中心に居るわなあ、って」 『おっかさん』

「『おっかさん』かあ・・・・・

やっぱカプセルに入れてね、 中で溶ける」

「お、仮面の突破法ですか」

テンションキャラのフリをして距離を縮めて、間合い 「そうそう。だからあたしのように、フランクでハイ

に入った所でプスッと刺す」

「ポンちゃん……昨日今日、ホントにありがとう」

「刺してもらおうか」

「女の子って怖いよね、こうして上目遣いでモジモジ

してると誰でもいっぱしの可愛い子を演じられるって

ところが」

あの時ツカサくんほんとにやさしいな、って思った・・・ 「無理ばっかり言ったのに……夜ほんとにごめんね

:

「いやいや。名前で呼ばなくていいから」

「ホントにホントだよ?! だって……夢に、出てきた

もん・・・・・」

「演技派ですなあ!」

「えっ、どこまでネタでございましょう?」 「真面目に聞いて! あたし真剣なんだから!」

番でしょ? こんなチャンスでもなかったら、恥ずか 「ネタからマジな話にシームレス移行はラブコメの定

しくて告白なんかできないじゃない!」 -コク? あいや、えー」

「ええい、わかってないなあ、

あたし、ポンちゃんのこと好き!

だから……だから付き合って! おねがいしま

す!

両手突き出しどーん。

えーつ、と。

俺の頭蓋骨の中で自慢のZ80がフル回転して火を

噴いた。

貰えないよね。あの、あたしのキモチだけ……知って くれたら、それでいいから……」 「……ごめん。やっぱこんな形じゃ真剣に受け取って

えれば、と思います」 で、あ、 「あ、いやいや、ちょつ、ちょっとビックリしただけ えー・・・・はい、あの、ちょと、考えさせて貰

タク女でも? 「……ホントに? あたしみたいなチンチクリンのオ

「いや! 鈴 木は……ランは、

•

「あほらやっぱりー」 「ぶわーーーっはっはっはっはっは!

録った!」

「あははははははは、刺さった刺さった! これ「録るな! 下でモジモジしてたのそれかよ!」 凄 いよポンちゃん! 凄い作戦!」

「ったく・・・・・

録られたって別にいーけどな。ホントのキモチ

だから」

「……へつ?

「前フリありで突然そんな風にされて芝居だと警戒し

ねーわけねーだろ」

「あいやだってそれは」

「それでもいいから俺は……俺は、今日気づいたこと、

伝えたかったんだよ」

「あの、えー」 「ランって……ほんとに可愛いな、って」

「えと、えつと」

247

俺お前の……マーヴェリックになりたい」

_ _

「……はひ?」

メの定番だろーが。真っ赤になってツバ呑み込んでや 「アハハ、このノリにカウンターで返すのこそラブコ

がんの」

|コロス!! 「いや可愛いねえランちゃん可愛いよおもう最高

お嫁さんにして!」

れるからー」 「モテなくてもいいもんランちゃんが彼女になってく 「コイツほんとにだからモテないんだよあんたは!」

いのかちらねー? れー? そいともほんとにあたちに彼女になってぽち 「んなわけねーだろ! 芝居つってっでしょー! あ

「あーなって欲しいなって欲しい。今度は熱いお茶が

杯怖い」

なるぞホントに!」 ほんとにボクチンとお付き合いしたいの

なって欲しいなー。 かちらねー?」 「あーなって欲しいなって欲しい、マーヴェリックに

もういい、このファイル世界中に配信する」

「じゃ俺は……この一部始終を」

「いやさっきあんぱんとか言い出したからこれ後から 「あー! なに、なんで録音してんのー!」

聞こうかなとか思って・・・・・らっきー」

「こっ、こんなの、バレたら、あたしたち、あたした

ち……ラブコメじゃん!」

「ふっふっふバラされたくなければ……あすいませー

もいっぱいこの無農薬フェアトレードコーヒーを

「元はといえばお前が刺しに掛かるからいかんのだ。 ーちくし

これからは相手を見てやるこったな」 「相手を見たから……ポンちゃんだから、やったんじ

「はいもうだめー」 「あえーー ーーーーひっかかってよーーーーう」

やない・・・・」

こだけど」 「鈴木さんディフェンス弱いね。 オフェンスはそこそ

251

攻めダルマと呼ばれております。

乙女をダルマとか呼ぶなよ。

あーくっそーポン助が攻めてくるとは思わなかった

んだよヂグジョー!」

「『人間至る所青山あり』ですよ」

「『はるやま』とな」 「街道沿いにいたるところに『青山』あるよね」

「あくっそちっくしょーー パヘおかわって

やる! 店員さん、店員さーーーん!」 「まあまあ、いまのとかマンガにしなよ」 「このクソ余裕くっそーああああもおおおおおムカッ

くーーーーーーうううう!

「ケケケケケ。 まあだから、こうやって、仮面と仮面がぶつかり合

あって、というか、つまり『仮面』しかテーマなんか ものだったり、っていうこれ自体が芸術の大テーマで ったり、仮面と本心が乖離してたり、 仮面の存在その

無いような気がするね。

、間にとって一番嬉しいことで、 一番悩まされるこ

とが、コミュニケーションだから_ 「うるせぇよ!

……店員さんこれ! これこのヨーグルトパンナコ

ッタ杏仁バニラパフェ!」 「ジョセフィーヌお嬢様、 またマーヴェリックと喧嘩

「へへへへへ」「ふふふふふ」ですか」

まあ、愉しかった、です。

*

·本田君。 ちょっと、 聞きたいことがあるんだけ

「あはいなんでございましょう山葉さん」

ど

「・・・・・これ、なに?」

元からクールな方なんだけど今日は 一段とツーンて

感じで・・・・・あー。

ツ・クロススプーン。 ケータイ画面に執事とお嬢様のパフェ・2ショッ

なんでこの写真流通してんすか」

梶場っちに流し込まれた」

あの女は一人次世代インターネットか。 ちが、あの

ね、 順を追って説明しますとー」

聞 いた。コミケ二人で行って、 部屋で泊まって、

仲良くサークル活動して、パヘ」

思うのですが、そこ実は私偉いもんでしてロビー降り 「今問題になってるのは主に二つ目のパラグラフだと

てソファで寝たんです紳士でしょう?_

「証人も居るよホテルマンでもロビーで徹夜で原稿

張ってた他のお客の皆さんでも」

あなんか眉尻と顎がちょっと上がった。 ° (

別 いいんだけど。

本田君がどこで何してたって。

たら、 ただね、こんな爛れた笑顔公衆の面前で垂れ ちょーっと公序良俗に反するのではないのかし

ら?」

さーい!』とかたくさん言われてー。 「それもー。 経緯があってー。会場でー。『笑顔くだ 慣れちゃったの

恐ろしいよね人間の順応力_

嘘

メラに追い回されりゃ笑顔固まるって」 「ホントだって。お前さんだってコスプレして一日カ

明のしようがない。俺普段こんな顔せんだろ?」 「小首傾げられても事実は事実なんだからそれ以上

「だから問題なのよ。これまたいいお召し物ね」

そのキャラのイメージに俺がピッタリだったらしくて 「それさあ、誂えたみたいにジャストでさあ。なんか

超ウケててさー」

「本当によかったわねニッコリ」

「あ、 なんだったら今度着てこようか? 鈴木に言え

ばまた借りてくれるだろうから」

「要らない」

「このほら、鈴木の着てる可愛い服、これもきっとぱ

ツインテールだってなんだってやってやるわよ、で、 るっぺにも……似合わんな」 「がんばりゃ似合うわよなんだってバカにしないでよ

ランはなんでこんな笑顔満開なの」

るとこんなかんじになる」 「知らんがな。祭りの前後はテンション変だろ。 れ。きっとお前もあの場へ参加した後パフェ食べ あれ

……パフェおごれ」

「は? なんで」

「胸に手を当てて考えなさい」

「ええ? えー……」

んでー!! パフェおごれ。いくぞ」 「えつ、ちょつ、ちょっと春師匠? 「わからないならわかるまで考えること。とりあえず 山葉さん!?

な

「・・・・・ちょっと鈴木さん! 聞いたわ

「ゼッツーなにそのオカマ風味」

「あっしの好きなんはホモ、てかBL。オカマじゃね 「ランちゃんオカマ好きだって聞いたから!」

「どう違うの?」

「そんな細かいことはどうでもいいのよ。聞いたわ 「そりゃあんた達オスの方がよく知ってっだろ」

ポンちゃん寝奪ったって」

「奪ってねーし。てか寝てねーし」

「また! ものっそいバカップル写真観ましたわ

「梶場?」

「イエース・ウイ・キャン」

とか言うからデータやったのに・・・・・」 「あの歩くまとめサイトめ『絶対人に見せないから』

「マスコミを信用したあなたの負けよ。ホントは見ら

れたかったんでしょ、写真」

「きっ」

はもう結婚式二次会の定番よね。いつの間にか話が進 「派手なお衣装着てモノを食べさせ合うなんて、こ

み過ぎだわ」

か若干不安なのですが、あの写真には流れってものが 「いや……筋肉王川崎先生にどう説明すれば伝わるの

あってね?」

「そう人生は川の流れよ。たいせつなのは今この時点。

でどう? ポンちゃん優しい?」

……まあ、うん、優しいのは優しい」

「でしょう?(ママもいっつも助けて貰ってるもの」

人になるよ?」 「いつまでもそんなことやってるとホントにそういう 「なんだか板についてきちゃったわ」

263

「でもツカサ、 「ヤバイって」 いい男でしょう? せっかく略奪した

んだから、もう離さないことね。ZETTAIに」

「いやだーかーらー。

そゆのじゃなくってー。

知ってるよ。けどまあ、 あたしの好みじゃないね」

だいたいポンちゃんがいい男だなんてこと、昔から

「あら? どちらが?」

「・・・・・ちょっと、いくじなし、なとこカナ?

「それは鈴木さんの本気が足りないんじゃないかし

5

「グッ」

「・・・・・まっ、 がんばって。 応援してるわ。 じゃママお

「誰の味方なんだよ」店行くから」

「愛の味方。

カウベルを鳴らして? お店の名前は 『ライムグリーン』。 愛で包んでa・ge・ル★_ 恋に疲れたら、

「チュウを投げんな」

いです?」 「・・・・・あのー、 春さん、それ一人で食べるのは辛くな

「へんへんへいひ。つづけなさい」 「あはい、つまり『仮面の存在』こそが人間にとって

ですね。 ョンに不安や疑いが生じるつまり社会が崩壊するから です。なので芸術家はそこに触れずに触れるように を凝らす。 番触れられたくないことなんです。コミュニケーシ だからそこに触れられると人間は発狂するん 似非者は触れてるようなフリをしてそこ

触

れないんですけど、まあそれはいいとして、で僕

考えた作戦が

266

だろうというその名も! とだけ言えば最も重大なこの問題に自動的に辿りつく 『あなた、わかってますよね?』 ほのめかし大作戦!」

「それぜったいだめだとおもう」 「なんで」

「にぶいもん、にんげんって」

「んじゃ嘘・ホラ・ガラクタをぶわーって何十も何百

と刺さる。これぞ嘘つき悪魔・ベリト作戦!」 くんだ。嘘だと安心してバリア下げたところにグサッ も並べてその中にひとーつだけ伝えたい真実を混ぜと

「却下。他人はともかくぽんたろーは嘘へ夕だからそ

んなのできっこない」

「一生考えなさいな。それが仕事でしょ、アーティス 「そおかなあ。じゃどーすりゃいーんスかねぇ」

トさん」 「んー・・・・道は、 遠い」

 \mathcal{O}_{\circ} 「遠かないわよ。歩いてることそれ自体を道っていう

「きょ、今日の春さんはなんか厳しいッス」 そんなことも知らないの?」

268

一おくづけ

作者

発行日 2013.12.24 ながたかずひさ

web http://rakken.net/ mail

nagata@mti.biglobe.ne.jp

twitter KazuhisaNagata

